

実務経験のある教員等による授業科目一覧【看護学科】

授業科目	単位数	実務経験のある科目担当教員の氏名		
疾病と治療Ⅳ	1	中村 拓磨		
基礎看護学概論	1	村山 由起子	小山 京子	
共通基本技術Ⅰ	1	杉山 恵子	出光 真弓	小山 京子
		明石 典子		
共通基本技術Ⅱ	1	小山 京子	松浦 善隆	明石 典子
日常生活援助技術Ⅰ	2	原田 奈津子	杉山 恵子	松村 久美
		小山 京子	出光 真弓	明石 典子
日常生活援助技術Ⅱ	2	原田 奈津子	縄田 由美	出光 真弓
		明石 典子	杉山 恵子	
フィジカルアセスメント	1	鯨臥 絵里子	小山 京子	縄田 由美
診療に伴う援助技術	1	原田 奈津子	松村 久美	
看護過程	1	原田 奈津子	縄田 由美	出光 真弓
地域・在宅看護概論Ⅰ	1	松浦 善隆		
地域・在宅看護概論Ⅱ	1	松浦 善隆		
地域・在宅看護方法論Ⅰ	1	松浦 善隆		
地域・在宅看護方法論Ⅱ	1	松浦 善隆		
地域・在宅看護演習Ⅰ	1	松浦 善隆		
成人看護学概論	1	橋本 真美		
成人看護学方法論Ⅰ	1	鯨臥 絵里子		
成人看護学方法論Ⅱ	1	橋本 真美	鯨臥 絵里子	
成人看護学方法論Ⅲ	1	橋本 真美		
成人看護学演習Ⅰ	1	鯨臥 絵里子		
成人看護学演習Ⅱ	1	村山 由起子	鯨臥 絵里子	
老年看護学概論	1	松村 久美		
老年看護学方法論Ⅰ	1	縄田 由美		
老年看護学方法論Ⅱ	1	松村 久美		
老年看護学演習	1	松村 久美		
小児看護学概論	1	杉山 恵子	明石 典子	
小児看護学方法論Ⅰ	1	川越 倫子		
小児看護学方法論Ⅱ	1	小山 京子	杉山 恵子	
小児看護学演習	1	杉山 恵子	小山 京子	
母性看護学概論	1	檜崎 久美子		
母性看護学方法論Ⅰ	1	檜崎 久美子		
母性看護学方法論Ⅱ	1	檜崎 久美子		
母性看護学演習	1	檜崎 久美子		
精神看護学概論	1	焼山 和憲		
精神看護学方法論Ⅰ	1	小原 尚利	別府 拓紀	山内 佑允
		焼山 和憲		
精神看護学方法論Ⅱ	1	縄田 由美		
精神看護学演習	1	縄田 由美		

実務経験のある教員等による授業科目一覧【看護学科】

授業科目	単位数	実務経験のある科目担当教員の氏名		
看護管理と医療安全	1	橋本 真美		
災害看護と国際看護	1	橋本 真美		
基礎看護学実習Ⅰ	1	原田 奈津子		
基礎看護学実習Ⅱ	2	原田 奈津子		
地域・在宅看護論実習	2	松浦 善隆		
成人看護学実習Ⅰ	2	鯨臥 絵里子		
成人看護学実習Ⅱ	2	鯨臥 絵里子		
成人看護学実習Ⅲ	2	松浦 善隆		
老年看護学実習Ⅰ	2	松村 久美		
老年看護学実習Ⅱ	2	松村 久美		
小児看護学実習	2	杉山 恵子		
母性看護学実習	2	檜崎 久美子		
精神看護学実習	2	縄田 由美		
合 計	61			

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校							
	○			令和7年度 看護学科							
授業科目名	情報科学			担当者名	三原 徹治						
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					
授業概要	情報社会の中で多種多様な情報から、看護・医療にとって必要なデータの選択、情報収集の方法、収集した情報の処理方法、処理結果の解釈・分析および活用方法を学び、倫理観に基づいた情報管理能力を習得し、看護実践や研究に活用できる能力を養う。										
到達目標	①情報社会の一員として情報社会の背景や仕組み・技術などの基礎的事項を理解する。 ②看護従事者として必要な情報処理、文書作成およびプレゼンテーション能力の基礎を習得する。										
成績評価	本科目では、最終試験の代わりに、学生諸君の成果ファイルの発表&コンテストを実施します。 コンテストを含めた成績評価の比率は以下のようです。 毎回授業の課題・小テスト；50% コンテスト；20% 授業への熱意；30%										
その他	三原徹治（実務経験なし）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	使用しません（プリント資料を配布します）		
参考図書	必要に応じて紹介します		

回数	授業計画
1	授業ガイダンス コンピュータ概説；コンピュータの歴史、PCの機能 他【自己学習課題】PCの5大機能とは？
2	インターネット概説；インターネットの歴史・仕組み 他 情報科学の基礎；アナログとデジタル、双方向性 他 【自己学習課題】双方向性メディアとは？
3	情報化社会；マルチメディア、インターネットビジネス、情報セキュリティ、関連マナーと法律 他 【自己学習課題】情報セキュリティとは？
4	情報処理手法と結果の解釈；統計処理、SAマトリクス、CS/CEポートフォーリオ 他 【自己学習課題】SAマトリクスとは？
5	看護・医療と情報システム；看護に必要な情報検索とEBM 【自己学習課題】EBMとは？
6	表・グラフ作成の基礎（MS Excelの利用）(1)；使用可能データ・演算子、代入、参照 【自己学習課題】数式データとは？
7	表・グラフ作成の基礎（MS Excelの利用）(2)；関数の利用、ソーティング 【自己学習課題】Excelで使える関数
8	表・グラフ作成の基礎（MS Excelの利用）(3)；度数分布（Countif関数と棒グラフ） 【自己学習課題】Excelによるグラフ作成
9	文書作成の基礎（MS Wordの利用）；日本語FEP、ページフォーマット、図表等の挿入 他 【自己学習課題】IMEパッドの利用
10	プレゼンテーション資料作成の基礎（MS PowerPointの利用）；スライド作成、アニメーション設定 【自己学習課題】アニメーション設定
11	プレゼンテーション演習(1)；テーマ選定、情報検索・収集 【自己学習課題】選定テーマの吟味
12	プレゼンテーション演習(2)；情報検索・収集、プレゼンテーションファイルの作成 【自己学習課題】収集したデータの処理
13	プレゼンテーション演習(3)；プレゼンテーションファイルの作成 【自己学習課題】プレゼンテーションファイルの補完
14	プレゼンテーション演習(4)；プレゼンテーション準備 【自己学習課題】プレゼンテーション原稿の補完
15	プレゼンテーションコンテスト(1)；プレゼンテーションコンテスト(2)は、最終試験に代えて実施 【自己学習課題】他の人の良い所を積極的に盗む

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	令和7年度	九州医療スポーツ専門学校 看護学科						
	○				担当者名		村山 由起子				
授業科目名	論理的思考			担当者名		村山 由起子					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				
授業概要	本科目は、臨床判断を行う基盤として、考える力の修得を目指す。このため、基礎的な文章の読解力や思考力、論理的表現力に関する演習を行う。										
到達目標	①一般的な文章の読解力と論理的表現能力の必要性がわかる。 ②なぜ論理的に考えることが大切なのか、考えることができる。 ③与えられた文章から、必要な情報を正確に読み取ることができる。 ④情報伝達において、論理的思考に基づいた適切な表現ができる。										
成績評価	終講試験 50% 課題レポート及び授業貢献度 (50%)										
その他	村山由起子 (実務経験なし)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	13歳からの論理ノート	小野田 博一	PHP
参考図書	話す・聞く・考える 論理力の基本	小野田 博一	日本実業出版社
参考図書	思考・論理・分析	波頭 亮	産業能率大学出版部

回数	授 業 計 画
1	オリエンテーション (授業の達成目標、評価基準の説明)、事前レポート
2	論理的思考とは (論理的思考を身に着けるメリット、思考力を鍛えるための4つの方法)、思考力ドリル実施
3	論理展開の方法論 (演繹法と帰納法について)
4	論理展開の方法論 (演繹法と帰納法について)、事例 (演習)
5	前提と結論、論証について、演繹法のトレーニング
6	論理の定義、論理構造の2つの条件、思考力ドリルの実施
7	思考のメカニズム、正しく分かる3つの要件 (概要)、思考力ドリルの実施
8	ディメンション、クライテリア、MECEについて
9	論理についての小テスト、1~8回までの授業内容の整理
10	思考の属人性 (要約・レポート作成)、思考ドリルの実施
11	論理的であるために (論理のキズ、欠陥、もっともらしさ)
12	論理的であるために (反論、へ理屈、常識)
13	論理的文章を書こう (論文、論理的構造、文章形式)
14	論理的文章を書こう (小論文作成)、解説
15	まとめ、終講試験について (説明)

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科							
	○			心理学		担当者名		中山 浩行			
授業科目名											
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					
授業概要	人の心を理解する方法の1つとして心理学がある。その心理学の中でも、自分自身に対する理解を深め、その理解を看護場面で活かせるよう、医療と関わりの深い臨床心理学の理論や技術を取り上げる。また、国試に出題されそうな心理学の理論等についても触れたい。										
到達目標	①自己理解を表現できる。 ②専門的職業においての患者や家族の理解能力を高める。										
成績評価	終講試験により評価										
その他	中山浩行（実務経験なし）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	看護学生の為の心理学	長田久雄編集	医学書院
参考図書	面白いほどよくわかる 心理学	渋谷昌三	アスペクト

回数	授業計画
1	心理学全般の概説と医療現場で働く臨床心理士等の医療専門職の説明
2	夢の分析（自分の見た夢の自己分析）
3	エンカウンターグループの体験
4	ストレスチェックリスト等の心理検査を通しての自己分析、医療現場における心理検査についての概説
5	交流分析によるエゴグラムの体験、エゴグラムの分析①
6	エゴグラムの分析②（交流分析の理論－『3つの私』による分析、人生における基本的態度）
7	エゴグラムの分析③（パターン分析、幼少期の親子関係と12の禁止令）
8	臨床心理学から見た心の病（うつ病とその周辺へのカウンセリング的な関わり方）
9	臨床心理学から見た心の病（統合失調症とその周辺へのカウンセリング的な関わり方）
10	臨床心理学から見た心の病（人格障害とその周辺へのカウンセリング的な関わり方）
11	子どもの問題（いじめ）の理解の仕方と関わり方
12	子どもの問題（虐待）の理解の仕方と関わり方
13	子どもの問題（不登校）の理解の仕方と関わり方
14	子どもの問題（発達障害）の理解の仕方と関わり方
15	臨床心理学から見た心の病（性同一性障害とその周辺へのカウンセリング的な関わり方）
	終講試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科							
	○			倫理学		担当者名	村山 由起子				
授業科目名	倫理学					担当者名		村山 由起子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
					15						
授業概要	人が生きることのなかでの価値観について考えるとともに、すべての行動の根本に倫理的判断が基礎にあることを理解し、看護職において適切な判断ができるための基本となる知識を学ぶ。										
到達目標	①倫理とは何かを表現できる。 ②生命倫理の歴史と原則とともに、インフォームドコンセントや守秘義務など重要なテーマについて学ぶ。 ③看護倫理及び専門職の倫理について説明できる。										
成績評価	終講試験 60%					授業貢献度及び課題レポート 40%					
その他	村山由起子（実務経験なし）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	系統看護学講座 別巻 看護倫理	著：宮坂 道夫 他	医学書院
参考図書	医療倫理 第2版	丸山マサ美編著	中央法規

回数	授 業 計 画
1	I. 生命倫理 A 倫理・倫理学とは何か 1 生命倫理の特徴 2 生命倫理の歴史
2	B. 生命倫理の理論 C. 生命倫理の進展で生まれた看護職の責務
3	II. 看護倫理とは何か A 看護倫理を学ぶ意義・発展と変遷 B 看護実践上の倫理に関する主要概念
4	C. 看護倫理を踏まえた看護実践の特徴 D. 保健師助産師看護師法と倫理
5	III. 専門職の倫理 A. 看護・看護師への期待・社会のイメージ B. 専門職に求められる倫理
6	C. 専門職の倫理綱領 D. 看護職の倫理綱領（看護実践における倫理問題の取り組み）
7	IV. 基準と法 A. 看護業務基準と倫理 B. 実践例によるG.W
8	V. 事例検討（看護理論を踏まえて、看護上の倫理問題を考える）□

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科							
	○			担当者名		出光 真弓					
授業科目名	人間関係論			担当者名		出光 真弓					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					
授業概要	①人間の在り方、人間発達課題などを学び、自らの心の動きを理解し、他者理解のための知識を得る。②コミュニケーションの意義と技法を学ぶ。③自己抑制できる能力、他者との関わり方について学ぶ。④看護師としての生き方、働き方を考える。										
到達目標	人間関係の基本的な関わりを通して、社会における対人的な関係について説明できる。										
成績評価	①終講試験（70 %） ②課題レポート及び授業貢献度（30%）										
その他	出光真弓（実務経験なし）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	系統看護学講座 基礎分野 人間関係論	著：石川 ひろの 他	医学書院
参考図書	必要に応じて紹介します		

回数	授 業 計 画
1	人間関係の中の自己と他者 人間関係論とは
2	自己認知と対人認知
3	対人関係と役割 ①対人関係の成立 ②対人関係の維持と崩壊
4	③対人葛藤と対処 ④社会的役割
5	態度と対人行動
6	集団と個人
7	人間関係をつくる理論と技法 コミュニケーション
8	人間関係をつくる理論と技法 カウンセリングと心理療法
9	人間関係をつくる理論と技法 コーチング
10	人間関係をつくる理論と技法 アサーティブコミュニケーション
11	保健医療チームの人間関係
12	患者を支える人間関係
13	地域をつくる人間関係
14	様々な看護場面における人間関係
15	様々な看護場面における人間関係

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科							
	○			担当者名		村山 由起子					
授業科目名	家族看護学			担当者名		村山 由起子					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	単位数	1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							15				
授業概要	家族看護の基本的概念、家族看護の理論、家族看護のプロセスを通して、健康問題を持つ対象と家族の看護支援について理解する。										
到達目標	①ジェノグラムやエコマップを用いて家族を捉えることができる。 ②家族を看護する上で基本となる理論の概要を捉えることができる。 ③家族をケアの対象とし看護することの意味と必要性を理解し、看護について説明できる。										
成績評価	①終講試験（70 %） ②課題レポート及び授業貢献度（30%）										
その他	村山由起子（実務経験なし）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	系統看護学講座 別巻 家族看護学	上別府 圭子	医学書院
参考図書	家族看護学 理論と実践 第5版	鈴木和子、渡辺裕子、佐藤律子	日本看護学校出版会

回数	授業計画
1	家族看護とは 家族看護の対象・特徴、家族の健康
2	家族看護理論 家族看護の変遷、諸理論の概要
3	家族看護過程の基盤となる理論
4	家族の機能 ①子供を持つ家族の発達課題・健康問題の特徴と看護方法について
5	家族の機能 ②成人・高齢者と家族の発達課題・健康問題の特徴と看護方法について
6	事例に基づく家族看護学の実践 ①急性期患者の家族看護
7	家族看護と多職種連携
8	現代の家族を取り巻く健康問題と看護

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科							
	○			担当者名		焼山和憲					
授業科目名	コミュニケーション論			担当者名		焼山和憲					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					
授業概要	自己理解・他者理解を人間関係の基礎とし、言語的・非言語的コミュニケーションの知識と技法、態度を少人数での参加型学習を交え、医療・看護現場や日常生活場面で円滑な人間関係がおこなえるコミュニケーションについて理解を深める。										
到達目標	①コミュニケーションの基本的な理解ができる。 ②他者を知り、多様なコミュニケーション技法を習得する。										
成績評価	ペーパーテスト（知識）、動画による技術テスト（技法、態度）										
その他	焼山和憲（実務経験なし）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	プリント		
参考図書	看護コミュニケーション-基礎から学ぶスキルとトレーニング	篠崎恵美子、藤井徹也	医学書院

回数	授業計画
1	コミュニケーションとは — カード構造化 —
2	コミュニケーションの種類と影響因子
3	人間関係開発のための自己理解（ジョハリの窓）
4	豊かな人間関係を形成する
5	ももたろう（傾聴力を身につける）
6	コミュニケーション力を高める基本モデルを理解する
7	学生のためのコミュニケーション講座
8	コミュニケーション・スキルを高める対話の技法（課題演習）
9	リフレーミングを身につける
10	看護面接技法
11	看護面接のトレーニング 患者とのコミュニケーション（動画参考）
12	看護面接のトレーニング 患者家族とのコミュニケーション（動画参考）
13	看護面接のトレーニング 実習の場におけるコミュニケーション（動画参考）
14	コミュニケーション能力を高めるツール
15	動画による技術テスト、リフレクション

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科					
	○								
授業科目名	医学英語			担当者名	廣田 恵美				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期
							30		
授業概要	この授業では、英語による患者への対応や情報の提供等に必要と考えられる言い回しや専門用語を、会話ベースの英文を用いて学習していきます。また、基本的な文法項目や日常会話での言い回しなども説明していきます。各unitを1～2回の授業ペースで進めていく予定ですが、受講者の関心および学力等に応じて、適宜内容を変更する可能性があります。								
到達目標	医学用語を学び、習得する。								
成績評価	筆記試験（80%）、授業への取り組み（20%）で評価を行う予定です。								
その他	廣田恵美（実務経験なし）								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	「Speaking of Nursing」	Peter Vincent, Alan Meadows	南雲堂
参考図書			

回数	授業計画
1	授業の概要説明、Unit 1 Asking Basic Questions 自己紹介の言いまわし
2	Unit 2 A Patient's First Visit 初来院の患者への対応
3	Unit 2の続き 問診票の記入、Unit 3 Where's Internal Medicine? 場所と行き方の説明の仕方
4	Unit 3の続き 各診療科への案内
5	Unit 4 Admission to the Hospital 時を表す前置詞の用法
6	Unit 4の続き 病室内の設備や備品の名称
7	Unit 6 Symptoms ささまざまな症状の訴え
8	Unit 6の続き 患者の訴えへの対応
9	Unit 7 Injuries and Emergencies 身体各部の名称
10	Unit 7の続き 怪我や捻挫などに関する表現
11	Unit 8 How Are You Feeling? 患者の体調や状態を表す言いまわし
12	Unit 8の続き 内臓器官の名称
13	Unit 9 A Patient's Medical History 病歴やアレルギーの有無に関して尋ねる
14	Unit 10 Medicine 薬の服用方法について説明する
15	今学期の授業総括

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科							
	○			担当者名		得本 啓次					
授業科目名	生涯健康スポーツ論 I			担当者名		得本 啓次					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			
授業概要	健康スポーツは身体を動かすことを楽しみ、生活に役立つ健康な身体と心を維持増進することを目的とする。 適切な指導を行えることが、今後の健康の維持増進に必要な不可欠であるため、子どもから高齢者の特徴について学んでいく。										
到達目標	本講義は生涯スポーツトレーナー（ベーシック）の資格取得を目指す										
成績評価	レポート30%、試験70%										
その他	得本啓次（実務経験なし）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	改訂版 生涯スポーツトレーナー教本	公益財団法人 日本健康スポーツ連盟・編集	国際学 園
参考図書	生涯スポーツトレーナーアドバンス実践編教本 世界一わかりやすいパーソナルストレッチ 背骨コンディショニングスペシャリスト教本	公益財団法人日本健康スポーツ連 盟・編集公益財団法人日本健康ス ポーツ連盟・編集 公益財団法人日本健康スポーツ連	国際学 園 国際学 園 国際学 園

回数	授業計画	
1	生涯スポーツ概論	生涯スポーツと健康、生涯スポーツ・トレーナーの役割
2	リハビリテーション	デジタルリハビリの活用
3	トレーニング法	イメージトレーニングの基礎知識とマインドセット
4	トレーニング法	イメージ結合法の理解と実践
5	トレーニング法	イメージトレーニングの実践、発表
6	スポーツ心理学	カウンセリング、人間の心身発達理論
7	スポーツ心理学	コミュニケーションスキル種類を理解し、方法論を学び指導に繋げる
8	マネジメント	マネジメント、マーケティング戦略を理解し健康社会の貢献
9	解剖生理学	骨の組織構造、筋肉の構造、筋収縮のメカニズム
10	解剖生理学/運動指導	子どもの身体の特徴と子どもの運動指導
11	解剖生理学/運動指導	高齢者の身体の特徴と高齢者の運動指導
12	運動指導	パーソナルストレッチ理論
13	運動指導	パーソナルストレッチ実践
14	運動指導	背骨コンディショニング理論 3要素
15	運動指導	背骨コンディショニング実践
	終講試験	終講試験実施

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校							
	○			令和7年度	看護学科						
授業科目名	生涯健康スポーツ論Ⅱ			担当者名	得本 啓次						
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			
授業概要	健康スポーツは身体を動かすことを楽しみ、生活に役立つ健康な身体と心を維持増進することを目的とする。適切な指導を行えることが、これからの健康の維持増進に必要不可欠であるため、子どもから高齢者の特徴について学んでいく。本授業は主に実技指導を中心に行う。										
到達目標	生涯スポーツトレーナー（アドバンス）の資格取得を目指す										
成績評価	レポート30%、試験70%										
その他	開講の順番は変更する可能性があります。 得本啓次（実務経験なし）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	改訂版 生涯スポーツトレーナー教本	公益財団法人日本健康スポーツ連盟・編集	学校法人 国際学園
参考図書	生涯スポーツトレーナーアドバンス実践編教本 車いす フィットネストレーナー教本 ティーボールティーチャー指導教本 ストレッチス実技編	公益財団法人日本健康スポーツ連盟・編集 公益財団法人日本健康スポーツ連盟・編集 吉村 正 水島 昭彦	学校法人 国際学園 学校法人 国際学園 体育教育出版会

回数	授業計画	
1	運動指導	ウォーキングが心身に及ぼす影響を多面的に理解と実践
2	運動指導	ストレッチスの理解と実践
3	生涯スポーツ	健康寿命延伸の要因の理解
4	生涯スポーツ	疲労回復へのアプローチ
5	心理学	より良い人間関係を築くための心理学
6	生涯スポーツ	ZER0100プロジェクトの考え方と取り組み
7	栄養学	5大栄養素、エネルギー代謝
8	運動指導	ティーボール コンプライアンス、ルール、審判方法、指導法
9	運動指導	ティーボール 実践 捕る投げる打つの基礎動作
10	運動指導	ティーボール 実践 試合形式練習と試合運営
11	スポーツ医学	筋膜リリースと疲労回復
12	スポーツ医学	筋膜リリースのセルフマッサージ
13	障がいスポーツ	障がいスポーツの歴史、車いすの種類と仕組み
14	障がいスポーツ	障がい者のトレーニング適応と実技指導
15	障がいスポーツ	自走式車いすの試乗 校外
	終講試験	終講試験実施

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科					
	○			担当者名		村山由起子、小山京子、檜崎久美子			
授業科目名	基礎ゼミナール			担当者名		村山由起子、小山京子、檜崎久美子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期
						30			
授業概要	看護学科における「学修」の意味を学び、学校生活を豊かにする人間関係を構築しながら、授業に臨む姿勢を創る。将来の進路を見据えたうえで、目的意識・問題意識をもって、学習目標と学習計画を立て、学生生活を進めることができるようになる。具体的な学習技法を実践的に習得し、それを基に主体的な学習姿勢を見につける。								
到達目標	①看護学科特有の学修である講義・演習・実習について説明できる。 ②情報倫理に基づき、個人情報の取り扱いについて説明することができる。 ③専門基礎分野の科目の学習方法について、グループワークを通して、習得することができる。 ④事例等を活用して、レポートを作成する。 ⑤ゼミ活動を通して、プレゼンテーションスキルを習得する。								
成績評価	ゼミ活動（40%）、課題提出（40%）、プレゼンテーション（20%）								
その他	村山由起子（実務経験なし）・小山京子（実務経験なし）・檜崎久美子（実務経験なし）								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	指定なし		
参考図書	逐次、配布します。		

回数	授業計画	担当責任者
1	オリエンテーション（ゼミ活動・授業計画について解説）、専門学校（看護学科）で学ぶということ—高校までの勉強との違いについて	村山
2	看護学科特有の学修について—実習に取り組む姿勢、講義・演習・実習について	村山
3	実習施設等についての理解（概要、学生としての心構え 等）	村山
4	情報リテラシー（情報倫理、情報の取り扱い）	小山
5	レポートと作文・感想文の違いについて、レポートの種類・基本構造について （課題提出）	小山
6	看護師国家試験について、看護師国家試験出題基準について（小テスト実施）	小山
7	ノートの取り方・まとめ方について	小山
8	ゼミ担当教員による各ゼミでの面談（3グループに分かれて実施） （面談以外の時間で課題実施）	小山
9	看護学科での学習の具体的方法について ①解剖生理の学習方法、小テストの実施	檜崎
10	小テストの結果をふまえて、 振り返り・やり直し （個別及びグループ）	檜崎
11	1）看護学科での学習の具体的方法について ②疾病と治療Ⅰの学習方法、小テストの実施	檜崎
12	小テストの結果を踏まえて、 振り返り・やり直し を実施（個別及びグループ）	檜崎
13		
14	今後主体的・具体的に取り組む自己の学習方法について（3科目を提示し、5W1Hで明記）	村山
15	基礎ゼミの活動を今後、どの様に活用していくか。 ゼミ・クラス全体発表会	村山

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科					
		○		担当者名		五島 志織			
授業科目名	解剖生理学 I			1年次		2年次		3年次	
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	前期	後期	前期	後期
単位数	1				授業時間数	30			
授業概要	解剖生理学 I では、人体の構造と機能を学び、呼吸器、消化器系の構造と機能、血液の組成・成分について、理解を深めることを目的として、講義を行う。								
到達目標	消化器に関する臓器の構造と機能を述べるができる。								
成績評価	テスト（筆記orマーク）・授業態度								
その他	五島志織（実務経験なし）								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学	著：坂井 建雄／岡田 隆夫	医学書院
参考図書			

回数	授業計画
1	形からみた人体（体表）
2	形からみた人体（人体の構造と区分）
3	形からみた人体（人体の部位と器官）
4	素材からみた人体（細胞の構造）
5	素材からみた人体（組織の構造）
6	機能からみた人体（器官系）
7	口、咽頭、食道の機能と構造
8	腹部消化管の構造と機能
9	膵臓、肝臓、胆嚢の構造と機能
10	腹膜、呼吸器の構造①
11	腹膜、呼吸器の構造②
12	血液（組成と成分）
13	血液（赤血球、白血球、血小板）
14	血液（血液型）
15	テスト対策（復習）

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科					
		○		担当者名		引地 尚子			
授業科目名	解剖生理学Ⅱ			1年次		2年次		3年次	
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	前期	後期	前期	後期
単位数	1				授業時間数	30			
授業概要	解剖生理学Ⅱでは、運動器系と神経系総論を講義する。 運動器系を構成する骨と筋の構造と機能について、理解を深めることを目的として、講義を行う。								
到達目標	骨・筋肉・神経の構造と機能を述べるができる。								
成績評価	定期試験により評価する。定期試験60点以上を合格とする。								
その他	引地尚子（実務経験なし）								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能1	著：坂井 建雄/岡田 隆夫/宇賀 貴 紀	医学書院
参考図書	ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能(1)：解剖生理学	編：武田 裕子/林正 健二	メディカ出版

回数	授業計画
1	骨学総論1（骨の形態と機能）
2	骨学総論2（関節の構造と分類）
3	骨学各論1（体幹の骨格）
4	骨学各論2（頭蓋骨①）
5	骨学各論3（頭蓋骨②）
6	骨学各論3（上肢の骨）
7	骨学各論4（下肢の骨）
8	筋学総論1（筋の形態）
9	筋学総論2（筋の機能）
10	筋学各論1（頭頸部の筋）
11	筋学各論2（体幹の筋）
12	筋学各論3（上肢の筋）
13	筋学各論4（下肢の筋）
14	神経総論1（神経組織の構造）
15	神経総論2（神経細胞の興奮・伝導）
	終講試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科					
		○		担当者名		五島 志織			
授業科目名	解剖生理学Ⅲ			1年次		2年次		3年次	
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	前期	後期	前期	後期
単位数	1				授業時間数	30			
授業概要	解剖生理学Ⅲでは、循環器系・泌尿器系・体液調節を学ぶ。循環器系・泌尿器系・体液調節の構造と機能について、理解を深めることを目的として、講義を行う。								
到達目標	循環器・泌尿器・内分泌系の構造と機能を述べるができる。								
成績評価	テスト（筆記orマーク）・授業態度								
その他	五島志織（実務経験なし）								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学	著：坂井 建雄／岡田 隆夫	医学書院
参考図書			

回数	授業計画
1	循環器系の構成（心臓の構造）
2	循環器系の構成（心臓の拍出機能）
3	循環器系の構成（心電図、末梢循環系の構造）
4	血圧の循環の調節（血圧）
5	血圧の循環の調節（血液の循環、リンパとリンパ管）
6	腎臓（構造）
7	腎臓（腎臓から分泌される生理活性物質）
8	排尿路
9	体液の調節
10	自律神経による調節①
11	自律神経による調節②
12	内分泌系による調節①
13	内分泌系による調節②
14	内分泌系による調節③
15	テスト対策（復習）

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科					
		○							
授業科目名	解剖生理学Ⅳ			担当者名	瀬田 祐司				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期
						30			
授業概要	解剖生理学Ⅳでは、神経系各論・感覚器系・生殖器系を学ぶ。神経系・感覚器・生殖器の構造と機能について、理解を深めることを目的として、講義を行う。								
到達目標	神経系・感覚器系・生殖器系の構造と機能を述べることができる。								
成績評価	解剖見学レポート10点と定期試験90点で評価する。合計点が60点以上を合格とする。								
その他	瀬田祐司（実務経験なし）								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	解剖生理学	坂井建雄・岡田隆夫	医学書院
参考図書			

回数	授業計画
1	神経系各論1（中枢神経系1）
2	神経系各論2（中枢神経系2）
3	神経系各論3（末梢神経系：脳神経）
4	神経系各論4（末梢神経系：脊髄神経）
5	神経系各論5（自律神経系）
6	感覚器系1（聴平衡感覚器・味覚器）
7	感覚器系2（視覚器・嗅覚器）
8	生殖器系1（男性生殖器系）
9	生殖器系2（女性生殖器系）
10	発生1（生殖細胞発生・受精）
11	発生2（人体発生・出産）
12	発生3（成長・老化）
13	皮膚（感覚・体温調節）
14	解剖見学
15	解剖見学

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科					
		○		担当者名		鯨臥絵里子・杉山恵子 原田奈津子・檜崎久美子			
授業科目名	解剖生理学V			1年次		2年次		3年次	
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	前期	後期	前期	後期
単位数	1				授業時間数			30	
授業概要	1年次に学習した解剖生理学Ⅰ～Ⅳの人体の「構造」と「機能」をふまえて、各領域の看護学の視点に繋がるように日常生活行動そのものの仕組みを理解する必要がある。そのため、日常生活行動に重点を置いた知識を整理することとした。								
到達目標	①既習の解剖生理学を想起する。 ②日常動作に関係する臓器の障がいから看護につながる援助を述べることができる。								
成績評価	出席状況、筆記試験、レポートなどで総合評価する								
その他	鯨臥絵里子（実務経験なし）・杉山恵子（実務経験なし）・原田奈津子（実務経験なし）・檜崎久美子（実務経験なし）								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	看護形態機能学（生活行動からみるからだ）	菱沼 典子	日本看護協会出版会
参考図書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学	坂井 建雄／岡田 隆夫	医学書院

回数	授業計画	
1	生活行動について（内部環境の恒常性、生命維持と生活行動）	鯨臥
2	恒常性維持のための物質の流通（流通の媒体—血液、流通路、流通の原動力）	鯨臥
3	恒常性維持のための調節機構（神経、ホルモン）	鯨臥
4	動く（筋の収縮、反射、随意運動、骨格・骨格筋・関節）	鯨臥
5	動く（日常生活での基本的動き）	鯨臥
6	食べる（食欲、食行動、咀嚼、嚥下、消化吸収）	杉山
7	息をする（息を吸う・吐く、換気、神経支配、気管と肺、外呼吸と内呼吸、ガス交換のメカニズム、ガスの運搬）	杉山
8	トイレに行く（尿意、排尿に関わる神経支配、尿の生成）	原田
9	トイレに行く（便意、排便に関わる神経支配）	原田
10	話す・聞く（脳の発達、発声器官、感覚器と感覚器官）	原田
11	眠る（体のリズム、レム睡眠・ノンレム睡眠、睡眠の評価）	杉山
12	お風呂に入る（垢を落とす、皮膚と付属物）	杉山
13	お風呂に入る（皮膚と粘膜、温まることの効果）	杉山
14	子どもを産む（染色体、男性と女性、月経周期）	檜崎
15	子どもを産む（月経周期、性交と受精）	檜崎

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
		○		令和7年度	看護学科				
授業科目名	微生物学			担当者名	有吉 渉				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期
						30			
授業概要	微生物学では、微生物の種類と一般的性質、病原微生物による感染症とそれに対する生体の防御反応（免疫）について学ぶ。さらに感染症に対する化学療法を中心とした治療法や感染予防対策に関して学ぶ。これらの学習を通して、微生物に関する基礎知識だけでなく、臨床に応用できる実践的な知識を得ることを目的にしている。								
到達目標	①微生物の基本的知識を習得する。 ②微生物に関する実践的な知識を習得する。								
成績評価	終講試験と平常点を踏まえて総合的に評価し、60点以上を合格とする。								
その他	有吉渉（実務経験なし）								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 4 微生物学	南嶋洋一、吉田眞一、永淵正法、齋藤光正、大野真治	医学書院
参考図書			

回数	授業計画
1	微生物学総論（P4-12）：微生物学の発展について学ぶ 感染症学総論（P62-73）：感染成立から発症・治癒までの経過について学ぶ
2	細菌学総論（P14-35, 73-82）：細菌の構造、成分と代謝、細菌感染症の機構について学ぶ
3	病原細菌と細菌感染症 1（P196-201, 225-241）：グラム陽性菌感染症について学ぶ
4	病原細菌と細菌感染症 2（P201-224, 241-242）：グラム陰性菌感染症について学ぶ
5	病原細菌と細菌感染症 3（P242-255）：スピロヘータ感染症、マイコプラズマ感染症、リケッチア感染症、クラミジア感染症について学ぶ
6	真菌学総論と真菌感染症（P50-58, 86-89, 306-314）：真菌の構造、成分と代謝、真菌感染症について学ぶ 原虫学総論と原虫感染症（P316-326）：原虫の構造、成分と代謝、原虫感染症について学ぶ
7	ウイルス学総論（P38-47, 82-86）：ウイルスの構造、成分と代謝、ウイルス感染症の機構について学ぶ
8	病原ウイルスとウイルス感染症 1（P258-270）：DNAウイルス感染症について学ぶ
9	病原ウイルスとウイルス感染症 2（P270-295）：RNAウイルス感染症について学ぶ
10	病原ウイルスとウイルス感染症 3（P296-304）：肝炎ウイルス感染症について学ぶ
11	感染に対する生体防御機構 1（P92-105）：自然免疫について学ぶ
12	感染に対する生体防御機構 2（P105-124）：獲得免疫および粘膜免疫について学ぶ
13	滅菌と消毒（P126-136）：滅菌と消毒の定義、方法について学ぶ 感染症の検査と診断（P138-148）：感染症の検査法や診断法について学ぶ
14	感染症の治療（P150-172）：化学療法薬の作用機序と特徴について学ぶ
15	感染症の現状と対策（P178-181）：感染症の変遷や問題点、対策方法について学ぶ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
		○		令和7年度	看護学科				
授業科目名	病理学			担当者名	松尾 拓				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期
						30			
授業概要	病理学とは生体に起こる病的な状態（病気、疾病）の本態を追求する学問であり、病気を起こす原因、それぞれの病気で生じてくる変化、その経過、そしてそれがためにたどる転帰を一本の軸とし、関連する事項をも含めて論ぜられる。総論においては病気を総論的視点から臓器の違いを超えて共通する一般的通則として把握することを主眼として講義を行い、各論においてはそれぞれの臓器・組織の特殊性を十分把握しながら、そこに起こる病変の特徴などについて理解することを主眼として講義を行う。								
到達目標	病気の原因、発生機序、病態生理の知識を習得する。								
成績評価	期末（終講）試験により評価する。								
その他	松尾拓（実務経験なし）								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	病理学 疾患のなりたちと回復の促進①	大橋健一ら	医学書院
参考図書			

回数	授業計画
1	総論：第1章 病理学で学ぶこと； 第2章 細胞・組織の障害と修復（1）
2	総論：第2章 細胞・組織の障害と修復（2）
3	総論：第3章 循環障害（1）
4	総論：第3章 循環障害（2）
5	総論：第4章 炎症と免疫、移植と再生医療（1）
6	総論：第4章 炎症と免疫、移植と再生医療（2）
7	総論：第5章 感染症
8	総論：第6章 代謝障害
9	総論：第7章 老化と死
10	総論：第8章 先天異常と遺伝子異常
11	総論：第9章 腫瘍（1）
12	総論：第9章 腫瘍（2）
13	各論：第10章 循環器系の疾患；第11章 血液・造血器系の疾患；第12章 呼吸器系の疾患
14	各論：第13章 消化器系の疾患；第14章 腎・泌尿器、生殖器系、乳腺の疾患；第15章 内分泌系の疾患
15	各論：第16章 脳・神経・筋肉系の疾患；第17章 骨・関節系の疾患；第18章 眼・耳・皮膚の疾患

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
		○		令和7年度	看護学科				
授業科目名	疾病と治療 I			担当者名	宇田津 明彦				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期
						30			
授業概要	消化器疾患と内分泌・代謝疾患の理解								
到達目標	消化器疾患と内分泌・代謝疾患の病態生理・検査・治療の知識を習得する。								
成績評価	終講試験・講義における平常点								
その他	宇田津明彦（実務経験なし）								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑤ 消化器	著：南川 雅子 他	医学書院
参考図書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑥ 代謝・内分泌	著：黒江 ゆり子 他	医学書院

回数	授業計画
1	食道疾患
2	胃・十二指腸疾患
3	腸・腹膜疾患（Ⅰ）
4	腸・膜疾患（Ⅱ）
5	肝疾患（Ⅰ）
6	肝疾患（Ⅱ）
7	胆のう・膵疾患
8	糖尿病（Ⅰ）
9	糖尿病（Ⅱ）
10	甲状腺疾患
11	副腎疾患
12	肥満・メタボリック症候群・尿酸代謝異常
13	視床下部・下垂体（Ⅰ）
14	視床下部・下垂体（Ⅱ）
15	副甲状腺疾患・まとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科					
		○							
授業科目名	疾病と治療Ⅱ			担当者名	宇田津 明彦				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期
						30			
授業概要	呼吸器疾患と循環器疾患の理解								
到達目標	呼吸器疾患と循環器疾患の病態生理・検査・治療の知識を習得する。								
成績評価	終講試験・講義における平常点								
その他	宇田津明彦（実務経験なし）								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学② 呼吸器	著：浅野 浩一郎 他	医学書院
参考図書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学③ 循環器	著：松田 直樹 他	医学書院

回数	授業計画
1	気道感染症（Ⅰ）
2	気道感染症（Ⅱ）
3	気管支喘息
4	慢性閉塞性肺疾患
5	肺血栓塞栓・肺高血圧症
6	肺腫瘍
7	呼吸不全
8	虚血性心疾患（Ⅰ）
9	虚血性心疾患（Ⅱ）
10	心不全
11	血圧異常
12	不整脈（Ⅰ）
13	不整脈（Ⅱ）
14	弁膜症
15	心膜炎・心筋疾患

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和6年度 看護学科							
		○									
授業科目名	疾病と治療Ⅲ				担当者名	宇田津 明彦・山田 真人					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					
授業概要	女性生殖器（乳房）疾患の理解 腎・泌尿器疾患の理解 眼疾患の理解 耳鼻咽喉疾患の理解 皮膚疾患の理解										
到達目標	乳房、泌尿器、眼、耳鼻咽喉頭、皮膚疾患の病態生理・検査・治療の知識を習得する。										
成績評価	終講試験・講義における平常点										
その他	宇田津明彦（実務経験なし）・山田真人（実務経験なし）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑨ 女性生殖器	著：末岡 浩 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑧ 腎・泌尿器	著：今井 亜矢子 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑬ 眼	執筆：大鹿 哲郎／平井 明美	医学書院
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑭ 耳鼻咽喉	執筆：小松 浩子 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑫ 皮膚	執筆：渡辺 晋一 他	医学書院
参考図書			

回数	授業計画	
1	乳房の疾患①乳がん（1）	山田
2	乳房の疾患②乳がん（2）	山田
3	乳房の疾患③乳腺良性腫瘍、良性腫瘍性疾患、発生発育異常・炎症	山田
4	急性腎障害・慢性腎不全	宇田津
5	慢性腎臓病（CKD）	宇田津
6	ネフローゼ症候群・糸球体腎炎	宇田津
7	全身性疾患による腎障害	宇田津
8	尿路・性器感染症・尿路機能障害・結石	宇田津
9	尿路腫瘍	宇田津
10	皮膚科総論	宇田津
11	皮膚科各論	宇田津
12	眼科総論	宇田津
13	眼科各論	宇田津
14	耳鼻科総論	宇田津
15	耳鼻科各論	宇田津

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校							
		○		令和7年度	看護学科						
授業科目名	疾病と治療Ⅳ			担当者名	宇田津 明彦・中村 拓磨						
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	血液疾患の理解 アレルギー・膠原病の理解 歯・口腔疾患の理解										
到達目標	血液、アレルギー、歯、口腔疾患の病態生理・検査・治療の知識を習得する。										
成績評価	終講試験・講義における平常点										
その他	宇田津明彦（実務経験なし）中村拓磨（歯科医院において歯科医師として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学④ 血液・造血器	著：飯野 京子 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑩ アレルギー・膠原病・感染症	執筆：岩田 健太郎 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑮ 歯・口腔	執筆：渋谷 絹子 他	医学書院
参考図書			

回数	授業計画	
1	血液疾患総論（生理・造血）	宇田津
2	赤血球系の異常	宇田津
3	造血器腫瘍	宇田津
4	出血性疾患	宇田津
5	アレルギー総論	宇田津
6	アレルギー疾患	宇田津
7	膠原病総論	宇田津
8	膠原病各論（Ⅰ）	宇田津
9	膠原病各論（Ⅱ）	宇田津
10	膠原病各論（Ⅲ）	宇田津
11	感染症総論	宇田津
12	感染症各論	宇田津
13	歯科領域における解剖学的知識	中村
14	歯科領域における臨床学的知識①	中村
15	歯科領域における臨床学的知識②	中村

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科					
		○							
授業科目名	疾病と治療Ⅴ			担当者名	宇田津 明彦・山田 真人				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期
							30		
授業概要	運動器疾患の理解 脳・神経疾患の理解								
到達目標	運動器、脳神経疾患の病態生理・検査・治療の知識を習得する。								
成績評価	終講試験・講義における平常点								
その他	宇田津明彦（実務経験なし）・山田真人（実務経験なし）								

使用教材			
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑩ 運動器	著：田中 栄 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑦ 脳・神経	著：井手 隆文 他	医学書院
参考図書			

回数	授 業 計 画	
1	運動器の構造と機能	山田
2	症状とその病態生理	山田
3	診断・検査と治療・処置	山田
4	疾患の理解①外傷性の運動器疾患	山田
5	疾患の理解①内因性の運動器疾患（1）	山田
6	疾患の理解①内因性の運動器疾患（2）	山田
7	脳血管疾患	宇田津
8	脳腫瘍・頭部外傷	宇田津
9	脊髄疾患	宇田津
10	末梢神経障害	宇田津
11	筋疾患	宇田津
12	脱髄・変性疾患	宇田津
13	脳・神経系の感染症	宇田津
14	てんかん・認知症	宇田津
15	まとめ	宇田津

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校							
		○		令和7年度 看護学科							
授業科目名	栄養学			担当者名	静間 佳代子						
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						15					
授業概要	人間にとっての栄養の意義と、食の健康とのかかわりおよび食事療法について学ぶ										
到達目標	①栄養素の役割と機能についての知識を習得する。 ②食事療法の方法を知る。										
成績評価	筆記試験										
その他	静間佳代子（実務経験なし）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能③ 栄養学	小野章史、杉山みち子ほか	医学書院
参考図書	糖尿病食事療法のための食品交換表	日本糖尿病学会 編・著	日本糖尿病協会・文光堂

回数	授 業 計 画
1	第1章 人間栄養学と看護
2	第2章 栄養素の種類とはたらき
3	第3章 食物の消化と栄養素の吸収・代謝
4	第4章 エネルギー代謝
5	第5章 食事と食品
6	第6章 栄養ケア・マネジメント 第7章 栄養状態の評価・判定
7	第9章 臨床栄養
8	食品交換表について まとめ
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科							
		○		担当者名		山下 正義					
授業科目名	薬理学			担当者名		山下 正義					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			
授業概要	薬の作用機序を知り、薬の効き方、効果、副作用などについての知識を持つことにより、看護師として患者に適切に対応することが出来る力を付ける。										
到達目標	薬物の生体への作用、薬物動態、相互作用、有害事象の知識を習得する。										
成績評価	薬物の作用と副作用などについて、その作用機序に則して理解できているかをテストの結果によって評価する。										
その他	山下正義（実務経験なし）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	系統看護学講座：専門基礎分野 薬理学（疾病のなりたちと回復の促進3）	吉岡充弘/泉剛/井関健/横式尚司/ 菅原満	医学書院
参考図書			

回数	授業計画
1	薬理学を学ぶにあたって：薬物・薬物療法・薬理学の意義、チーム医療について理解する。
2	薬理学の基礎知識：薬の作用を理解する為に薬力学・薬物動態学等の薬理学の基礎知識を付ける。
3	抗感染症薬：抗生物質、抗ウイルス薬、その他の抗菌薬の作用機序・副作用等の知識を付ける。
4	抗がん薬：抗がん薬の分類とその分類毎の作用機序・副作用その他の知識を付ける。
5	免疫治療薬：免疫の仕組みと、それに作用する薬物の作用機序その他の知識を付ける。
6	抗アレルギー薬・抗炎症薬：アレルギーと炎症の仕組みを知り、それに作用する薬の知識を付ける。
7	末梢での神経活動に作用する薬物：末梢神経系の仕組みと、それに作用する薬の知識を付ける。
8	中枢神経系に作用する薬物：中枢神経系の仕組みと、それに作用する薬の知識を付ける。
9	循環器系に作用する薬物：循環器系の仕組みと、それに使用する薬の作用機序などの知識を付ける。
10	呼吸器・消化器・生殖器・泌尿器系に作用する薬物：各組織に作用する薬の作用機序などの知識を付ける。
11	物質代謝に作用する薬物：代謝に関与する物質とその仕組み及びそれに作用する薬の機序を知る。
12	皮膚科用薬・眼科用薬：皮膚や目の仕組みを知り、それに作用する薬の作用機序等の知識を付ける。
13	救急の際に使用される薬物：救急医療に用いられる医薬品とその概要を知る。
14	漢方薬：漢方薬の理論と使い方。その特徴についての概要を知る。
15	消毒薬：消毒薬の機序と使用方法の知識を付ける。
付章	輸液製剤・輸血剤：輸液や輸血に関する知識を付ける。

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科					
		○							
授業科目名	臨床検査・治療論			担当者名	小南 浩・山田 史子 浪尾 敬一				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期
							30		
授業概要	I 臨床検査 II 放射線療法 III 麻酔法								
到達目標	臨床検査の種類、画像の見方、麻酔の種類・副作用を知る。								
成績評価	出席状況、筆記試験、レポート等で総合的に評価する								
その他	小南浩（実務経験なし）・山田史子（実務経験なし）・浪尾敬一（実務経験なし）								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論	編集：矢永勝彦/高橋則子	医学書院
	系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学	著：青木 学 他	医学書院
	系統看護学講座 別巻 臨床検査	編集：奈良 信雄/和田 隆志	医学書院
参考図書			

回数	授業計画	
1	臨床検査の基礎	小南
2	一般検査・血液学的検査	小南
3	化学検査	小南
4	免疫・血清学的検査、内分泌学的検査	小南
5	微生物学的検査、病理学的検査	小南
6	生体検査	小南
7	序章 放射線医学の成り立ちと意義 p2-p15 第1章 画像診断と看護 p20-p28	浪尾
8	第2章 X線診断 p30-43 第3章 CT p54-p66 第4章 MRI p78-p90	浪尾
9	第5章 超音波検査 p100-113 第6章 核医学検査 p128-p137	浪尾
10	第7章 IVR・血管造影 p158-p177	浪尾
11	第8章 放射線治療総論 p182-208	浪尾
12	A: 麻酔法 ①麻酔とは②麻酔の種類③全身麻酔の実際④術前管理	山田
13	⑤術中管理⑥術後管理⑦全身麻酔 (1) 麻酔器 (2) 気道確保法	山田
14	⑦ (3) 麻酔導入法 (4) 吸入麻酔 (5) 静脈麻酔 (6) 使用薬剤 (7) 合併症	山田
15	⑧局所麻酔 B: 呼吸管理 C: 体液管理 D: 輸血療法	山田

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	令和7年度	九州医療スポーツ専門学校 看護学科						
			○								
授業科目名	基礎看護学概論				担当者名	村山由起子・小山京子					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					
授業概要	看護全般の概念をとらえ、看護の位置づけと役割・機能とその重要性を学ぶ。看護師としての基本的責任を果たすため、看護師の在り方に対する倫理を学ぶ。										
到達目標	①看護の主要概念や看護の定義・機能・役割及び看護の歴史について述べるができる。 ②看護を発展させるために必要な看護理論及び理論家について述べるができる。 ③看護専門職者に必要となる看護倫理や法的責任について、説明することができる。 ④看護職の資格、養成制度、キャリア開発などについて課題を含めて述べるができる。										
成績評価	出席状況、筆記試験、レポートなどで総合評価する										
その他	村山由起子（病院消化器内科において看護師として勤務）・小山京子（医院小児科において看護師として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [1] 看護学概論	著者代表 茂野香おる	医学書院
	よくわかる中範囲理論	黒田裕子	学研
参考図書	看護覚書、看護の基本となるもの		

回数	授業計画	
1	授業概要について解説、看護の本質（看護とは何か・看護のイメージ、看護の語義・定義）	村山
2	看護の本質（看護の変遷とナイチンゲール・ヘンダーソン）	村山
3	看護の本質（看護の主要概念、看護の概念枠組みとは、看護理論と看護過程）	村山
4	看護理論（主要な理論家の概念枠組みを考える①）	村山
5	看護理論（主要な理論家の概念枠組みを考える②）	村山
6	主要な中範囲理論について解説、各グループで概要のまとめ	村山
7	中範囲理論について、各グループまとめ発表	村山
8	看護における倫理	村山
9	看護とは A看護の本質 ①看護の変遷 ③看護の歴史（世界の看護の歴史、日本の看護・医療の歴史）	小山
10	B看護の役割と機能 ①看護ケアについて ③看護の役割・機能の拡大	小山
11	C看護の継続性と連携 ①看護における情報伝達と共有 ②多職種チームの連携と継続的にかかわり ③在宅療養を支える連携と継続的なかかわり	小山
12	看護の対象の理解 A人間の「こころ」と「からだ」を知るの意味 B生涯発達しつづける存在としての人間の理解 C人間の「暮らし」の理解	小山
13	国民の健康状態と生活 A健康のとらえ方 B国民の健康状態 C国民のライフサイクル	小山
14	看護の提供者 A職業としての看護 B看護職の資格・養成制度・就業状況 C看護職者の継続看護とキャリア開発 D看護職の養成制度の課題	小山
15	看護の提供のしくみ Aサービスとしての看護 B看護サービス提供の場 C看護をめぐる制度と政策	小山

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	令和7年度	九州医療スポーツ専門学校 看護学科						
			○								
授業科目名	共通基本技術 I				担当者名	杉山恵子・小山京子・出光真弓・明石典子					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					
授業概要	看護技術とは科学的知識の裏づけられた看護技術を援助技術として実践することであり、看護技術の良否が看護の質を決定する。また、看護を始めるにあたってどんな看護場面においても、まずは対象を理解することから始まり、それにはコミュニケーションが必要不可欠である。そのためここでは、看護技術の習得の必要性を理解し、援助経過における人間関係形成に必要な知識・コミュニケーション技術や自己・他者理解を深めるための技法、生命徴候を観察する基本的援助技術を習得する。										
到達目標	①看護技術とは何かを考えることができ、技術知識を適切に修得することができる。 ②対象とのかかわりかた、感染防止、安全確保の技術、対象の状況把握の技術及び実践方法が理解できる。										
成績評価	出席状況・演習時の態度・レポート・筆記試験で総合的に判断する										
その他	杉山恵子（病院小児科において看護師として勤務）・出光真弓（病院一般内科において看護師として勤務）・明石典子（医院小児科において看護師として勤務）・小山京子（医院小児科において看護師として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I	著者代表 茂野香おる	医学書院
参考図書	根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版	編集 任 和子・井川順子	医学書院

回数	授業計画	
1	看護技術を学ぶにあたって	杉山
2	コミュニケーション	杉山
3	感染防止の技術	小山
4	感染防止の技術 【演習57：スタンダードプリコーション（標準予防策）に基づく手洗い】 【演習58：必要な防護用具（手袋、ゴーグル、ガウン等）の選択・着脱】 【演習59：使用した器具の感染防止の取り扱い】 【演習60：感染性廃棄物の取り扱い】	小山・明石
5	ヘルスアセスメント全体の概観（バイタルサインの観察とアセスメント）	杉山
6	ヘルスアセスメント全体の概観（バイタルサインの観察とアセスメント）	杉山
7	ヘルスアセスメント全体の概観（バイタルサインの観察とアセスメント）	杉山
8	ヘルスアセスメント全体の概観（バイタルサインの観察とアセスメント） 【演習50：バイタルサインの測定（デモンストレーション）】	杉山・出光
9	ヘルスアセスメント全体の概観（バイタルサインの観察とアセスメント） 【演習50：バイタルサインの測定】	杉山・出光
10	ヘルスアセスメント全体の概観（バイタルサインの観察とアセスメント） 【演習50：バイタルサインの測定】	杉山・出光
11	ヘルスアセスメント全体の概観（バイタルサインの観察とアセスメント） 【演習50：バイタルサインの測定】	杉山・出光
12	ヘルスアセスメント全体の概観（バイタルサインの観察とアセスメント） 【演習50：バイタルサインの測定】	杉山・出光
13	看護過程展開の技術 看護記録	杉山
14	技術チェック	杉山・出光・ 小山
15	技術チェック	杉山・出光・ 小山

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	○	九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科						
	授業科目名 共通基本技術Ⅱ				担当者名	小山京子・松浦善隆・明石典子					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
					30						
授業概要	看護実践の原則である感染予防や安全確保についての基礎的知識・技術を理解する。また主要な症状を示す対象者の看護や死の看取りの援助など、今後看護を学ぶ上で共通する技術について学ぶ。そして看護における学習支援の基本技術、情報共有するために必要な記録・報告について理解し、基本的援助技術を学習していく。										
到達目標	①安全確保や標準予防策の技術について述べるができる。 ②主な症状を示す対象者に対する看護について述べるができる。 ③死にゆく人と家族の心理や死亡による身体の変化を踏まえた死後の処置の実際が理解できる。										
成績評価	出席状況・演習時の態度・レポート・筆記試験で総合的に判断する										
その他	松浦善隆（病院外科において看護師として勤務）・明石典子（医院小児科において看護師として勤務）・小山京子（医院小児科において看護師として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ	著者代表 茂野香おる	医学書院
	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ	著者代表 任 和子	医学書院
	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [4] 臨床看護総論	著者代表 香春知永	医学書院
参考図書	根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版	編集 任 和子・井川順子	医学書院

回数	授業計画	
1	安全確保の技術	明石
2	安全確保の技術 【演習 63：インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告】	明石
3	感染防止の技術	小山
4	感染防止の技術	小山
5	感染防止の技術 【演習61：無菌操作】	小山
6	感染防止の技術 【演習61：無菌操作】	小山
7	主要な症状を示す対象者への看護	小山
8	主要な症状を示す対象者への看護	小山
9	主要な症状を示す対象者への看護	小山
10	主要な症状を示す対象者への看護	小山
11	死の看取りの援助	松浦
12	死の看取りの援助	松浦
13	死の看取りの援助	松浦
14	学習支援	小山
15	学習支援	小山

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科					
					○							
授業科目名	日常生活援助技術Ⅰ					担当者名		原田奈津子 杉山恵子 松村久美 小山京子 明石典子 出光真弓				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
					60							
授業概要	看護技術とは何か、対象に看護技術を用いる意味を考える。看護における環境の概念を学び、対象の生活環境を整えるための援助を学ぶ。また対象における活動と休息の意義を学び、活動と休息を整えるための援助を学ぶ。そして対象が安全で安楽に日常生活を送るために必要な苦痛の緩和や安楽確保の技術、衣生活の意義についても学び、対象の療養生活を整えるための基本的技術を学ぶ。											
到達目標	①看護技術を支える要素を学び、科学的根拠に基づき看護技術の必要性を判断できる。 ②原理原則に基づき、看護技術の正確な方法を実施することができる。											
成績評価	出席状況、レポート提出状況、筆記試験、技術チェック等で総合的に評価する											
その他	原田奈津子（医院産婦人科において看護師として勤務）・杉山恵子（病院小児科において看護師として勤務）・松村久美（病院精神科において看護師として勤務）・小山京子（医院小児科において看護師として勤務）・出光真弓（病院一般内科において看護師として勤務）・明石典子（医院小児科において看護師として勤務）											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③	任 和子他	医学書院
参考図書	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術	任 和子他	医学書院

回数	授業計画		
1	環境調整技術（援助の基礎知識）		杉山
2	環境調整技術（ベッド周囲の環境整備）		杉山
3	環境調整技術【演習 1：快適な療養環境の整備 65：安全な療養環境の整備】		杉山・小山 松村・明石
4	活動・休息援助技術 基本的活動の基礎知識（ボディメカニクス、体位）		原田
5	活動・休息援助技術 基本的活動の基礎知識（体位変換）		原田
6	活動・休息援助技術 基本的活動の基礎知識【演習 16：体位変換・保持 ボディメカニクス】		原田・松村・ 出光・小山
7	環境調整技術（ベッドメイキング・リネン交換）		杉山
8	環境調整技術 リネン交換【演習 ベッドメイキング（デモンストレーション）】		杉山・小山 松村・明石
9	環境調整技術 リネン交換【演習 ベッドメイキング】		杉山・小山 松村・明石
10	環境調整技術 リネン交換【演習 ベッドメイキング】		杉山・小山 松村・明石
11	環境調整技術 リネン交換【演習 2：臥床患者のリネン交換（デモンストレーション）】		杉山・出光・ 明石
12	環境調整技術 リネン交換【演習 2：臥床患者のリネン交換】		杉山・出光・ 明石
13	環境調整技術 リネン交換【演習 2：臥床患者のリネン交換】		杉山・出光・ 明石
14	清潔・衣生活援助技術 清潔の援助の基礎知識		原田

15	清潔・衣生活援助技術 病床での衣生活の援助 援助の基礎知識	原田
16	清潔・衣生活援助技術 病床での衣生活の援助 援助の実際（寝衣交換）	原田
17	清潔・衣生活援助技術 寝衣交換【演習 21：点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換】	原田 出光
18	清潔・衣生活援助技術 寝衣交換【演習 21：点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換】	原田 出光
19	清潔・衣生活援助技術 寝衣交換【演習 27：点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換】	原田 出光
20	活動・休息援助技術 移乗・移送	松村
21	活動・休息援助技術 移乗・移送【演習 13：車椅子での移送 14：歩行・移動介助 15：移乗介助 18：ストレッチャー移送】	松村
22	活動・休息援助技術 移乗・移送【演習 13：車椅子での移送 14：歩行・移動介助 15：移乗介助 18：ストレッチャー移送】	松村
23	苦痛の緩和・安楽確保の技術 体位保持	松村
24	苦痛の緩和・安楽確保の技術 体位保持【演習 16：体位変換・保持】	松村 杉山
25	苦痛の緩和・安楽確保の技術 罨法	松村
26	苦痛の緩和・安楽確保の技術 罨法【演習 29：体温調節の援助】	松村
27	技術チェック	原田 杉山 出光
28	技術チェック	原田 杉山 小山
29	技術チェック	原田 杉山 小山
30	技術チェック	原田 杉山 小山

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科						
						○						
授業科目名	日常生活援助技術Ⅱ					担当者名	原田奈津子 縄田由美 明石典子 杉山恵子 出光真弓					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
						60						
授業概要	健康障害により日常生活が自立して行えなくなった患者にとって、看護師が提供する日常生活の援助は人間らしい生を支える技術であり、看護の本領といえる。ここでは、清潔、食事、排泄において、各々の意義や援助方法を習得する。											
到達目標	① 看護実践に必要な看護技術を科学的根拠に基づき理解できる。 ② 日常生活援助技術の原理原則をふまえ、実践することができる。											
成績評価	出席状況、レポート提出状況、筆記試験等で総合的に評価する											
その他	原田奈津子（医院産婦人科において看護師として勤務）・縄田由美（病院精神科において看護師として勤務）・杉山恵子（病院小児科において看護師として勤務）・出光真弓（病院一般内科において看護師として勤務）・明石典子（医院小児科において看護師として勤務）											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③	任 和子他	医学書院
参考図書	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術	任 和子他	医学書院

回数	授業計画		
1	食事援助の基礎知識		明石
2	食事摂取の介助		明石
3	食事摂取の介助【演習 3：食事介助（嚥下障害のある患者を除く）】		明石 原田・縄田
4	非経口的栄養摂取の援助（経管栄養法、中心静脈栄養）		明石
5	非経口的栄養摂取の援助【演習 5：経管栄養法による流動食の注入 6：経鼻胃チューブの挿入】		明石・杉山 縄田・出光
6	非経口的栄養摂取の援助【演習 5：経管栄養法による流動食の注入 6：経鼻胃チューブの挿入】		明石・杉山 縄田・出光
7	清潔・衣生活援助技術 清潔の援助の実際（入浴・シャワー浴）		原田
8	清潔・衣生活援助技術 清潔の援助の実際（全身清拭）		原田
9	清潔・衣生活援助技術 清潔の援助の実際【演習 20：整容 24：全身清拭（デモンストレーション）】		原田 出光
10	清潔・衣生活援助技術 清潔の援助の実際【演習 20：整容 24：全身清拭】		原田 出光
11	清潔・衣生活援助技術 清潔の援助の実際【演習 20：整容 24：全身清拭】		原田 出光
12	清潔・衣生活援助技術 清潔の援助の実際（洗髪・手浴・足浴）		原田
13	清潔・衣生活援助技術 清潔の援助の実際【演習 25：洗髪（デモンストレーション）】		原田
14	清潔・衣生活援助技術 清潔の援助の実際【演習 25：洗髪】		原田
15	清潔・衣生活援助技術 清潔の援助の実際【演習 25：洗髪】		原田

16	清潔・衣生活援助技術 清潔の援助の実際【演習 19：手浴】	原田
17	清潔・衣生活援助技術 清潔の援助の実際【演習 19：足浴】	原田
18	清潔・衣生活援助技術 清潔の援助の実際（口腔ケア・摂食嚥下訓練）	原田
19	清潔・衣生活援助技術 清潔の援助の実際【演習 26：口腔ケア】	原田
20	排泄援助技術 自然排尿および自然排便の基礎知識	縄田
21	排泄援助技術 自然排尿および自然排便の介助の実際	縄田
22	排泄援助技術 自然排尿および自然排便の介助【演習 7：排泄援助（床上、ポータブルトイレ、オムツ等）】	縄田 原田
23	排泄援助技術 自然排尿および自然排便の介助【演習 7：排泄援助（床上、ポータブルトイレ、オムツ等） 23：陰部の保清】	縄田 原田
24	排泄援助技術（一時的導尿・持続的導尿・排便を促す援助）	縄田
25	排泄援助技術【演習 10：浣腸 11：摘便】	縄田
26	排泄援助技術（まとめ）	縄田
27	技術チェック	原田 縄田 出光
28	技術チェック	原田 縄田 出光
29	技術チェック	原田 縄田 出光
30	技術チェック	原田 縄田 出光

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	○	九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科						
	授業科目名 フィジカルアセスメント				担当者名		鯨臥絵里子・小山京子・縄田由美				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	フィジカルアセスメント技術とそれによって得られる客観的データについて理解する。										
到達目標	フィジカルアセスメントに必要な技術を理解することができる。										
成績評価	出席状況、技術演習参加状況、レポート提出状況、筆記試験等で総合的に評価する										
その他	鯨臥絵里子（病院手術室において看護師として勤務）・縄田由美（病院精神科において看護師として勤務）・小山京子（医院小児科において看護師として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I	著者代表 茂野香おる	医学書院
参考図書			

回数	授業計画	
1	I. ヘルスアセスメントとは	鯨臥
2	II. 全体の概観 フィジカルアセスメントに必要な技術	鯨臥
3	III. 系統的フィジカルアセスメント ケアにつなげるフィジカルアセスメント	鯨臥
4	呼吸器系のフィジカルアセスメント	鯨臥
5	循環器系のフィジカルアセスメント	鯨臥
6	筋・骨格筋のフィジカルアセスメント	鯨臥
7	神経系のフィジカルアセスメント	鯨臥
8	身体計測	小山
9	乳房・腋窩のフィジカルアセスメント 腹部のフィジカルアセスメント	小山
10	頭頸部と感覚器（眼・耳・鼻・口）のフィジカルアセスメント 外皮系（皮膚・爪）のフィジカルアセスメント	小山
11	IV. フィジカルイグザミネーションの実際 演習 ① 【演習52：フィジカルアセスメント】	鯨臥・縄田
12	演習 ② 【演習52：フィジカルアセスメント】	鯨臥・縄田
13	演習 ③ 【演習52：フィジカルアセスメント】	鯨臥
14	演習 ④ 【演習51：身体計測】 【演習52：フィジカルアセスメント】	小山・縄田
15	V. 心理・社会状態のアセスメント	小山

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科					
					○						
授業科目名	診療に伴う援助技術					担当者名		松村久美 原田奈津子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	看護の対象がより安全で安楽な療養生活のもとに回復過程を促進出来るように、診療の補助業務の視点から、診療を受ける対象への看護援助の基本となる知識・援助方法を学習していく。										
到達目標	看護師の業務のひとつである診療の補助に必要な知識・援助方法が理解できる。										
成績評価	出席状況・演習時の態度・レポート・筆記試験で総合的に判断する										
その他	松村久美（病院精神科において看護師として勤務）・原田奈津子（医院産婦人科において看護師として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③	任和子 著者代表	医学書院
	系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 基礎看護学④	茂野香おる 著者代表	医学書院
	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術	任和子 著者代表	医学書院
参考図書	看護学生スタートアップトレーニング	水方智子 監修	メディカ出版

回数	授業計画
1	創傷管理技術
2	創傷管理技術
3	呼吸・循環を整える技術
4	呼吸・循環を整える技術
5	診察・検査・処置における技術【演習 66：放射線の被ばく防止策の実施】
6	診察・検査・処置における技術【演習 56：検査の介助】
7	治療・処置を受ける対象者への看護
8	与薬の技術（与薬の基礎知識・経口与薬・口腔内与薬・吸入・点眼・点鼻）
9	与薬の技術（経皮的与薬・直腸内与薬・注射・注射の実施法）
10	与薬の技術（注射の実施法・輸血管理）
11	与薬の技術【演習 38：経口薬（バツカル錠、内服薬、舌下錠）の投与、39：経皮・外用薬の投与、64：患者の誤認防止策の実施】
12	与薬の技術【演習 41：皮下注射、42：筋肉内注射、注射準備、62：針刺し事故の防止・事故後の対応】
13	与薬の技術【演習 53：検体（尿・血液等）の取り扱い、55：静脈血採血、静脈内注射】
14	与薬の技術【演習 43：静脈路確保・点滴静脈内注射、44：点滴静脈内注射の管理】
15	医療機器の原理と実際

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野							
					○							
授業科目名	看護過程					担当者名		原田奈津子 縄田由美 出光真弓				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
							30					
授業概要	看護活動は、あらゆる健康状態の人々を対象に、一人ひとりの健康に対する考え方を尊重し、いかに自立して健康に暮らせるかという生活の質をも含めた継続的な活動である。看護活動には、看護過程の概念が用いられ、これは順序性を伴う思考・判断過程でもあり、この過程には多くの科学的な根拠や知識が必要とされる。ここでは、科学的に問題解決を行うため、看護過程の基礎を理解したうえで、事例をもとに看護過程の展開方法を習得する。											
到達目標	①看護過程展開の意義・各段階について、説明することができる。 ②事例を踏まえて、ゴードンの機能的健康パターンによるアセスメントができる。 ③看護診断ハンドブックを用いて、問題の明確化ができる。 ④看護上の問題に対して、目標を明確にし、O・T・Eで計画立案ができる。 ⑤計画立案後の状況を踏まえ、SOAPで記録し、評価できる。 ⑥看護過程の各段階を踏まえ、プレゼンテーションを行う。											
成績評価	出席状況・授業態度・終講試験などで総合的に評価する。 (個人ワークを行ったうえで演習・グループワークに参加すること。個人ワーク及びグループワークについては、講義時間外での取り組みが必要となる。)											
その他	原田奈津子（医院産婦人科において看護師として勤務）・出光真弓（病院一般内科において看護師として勤務）・縄田由美（病院精神科において看護師として勤務）											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②	茂野 香おる 他	医学書院
参考図書	看護診断ハンドブック 第11版	リンダJ.カルペニート	医学書院

回数	授業計画
1	I. 看護過程とは 1) 看護過程の定義と看護過程各段階と相互関係 2) 看護過程を展開する際に基盤となる考え方
2	II. 看護過程の各段階 1) アセスメント(情報の収集と分析) (1) 情報の種類と情報収集の方法 (2) ゴードンの機能的健康パターンによる情報収集と分類・整理
3	(3) 問題解決過程の考え方による分析・解釈 ①分析・解釈 ②仮診断
4	(4) 関連図による統合 ①関連図作成 ※関連図の位置づけ ②統合
5	◆看護過程・事例展開 GW① ◇グループ編成・担当教員紹介 ◇リーダー・サブリーダーおよび司会・書記の順番確認 ◇演習事例配布と演習展開の説明 1) 演習事例の読み込み・データベースシート検討
6	◆看護過程・事例展開 演習・GW② ・アセスメント
7	◆看護過程・事例展開 演習・GW③ ・アセスメント
8	◆看護過程・事例展開 演習・GW④ ・アセスメント
9	2) 看護診断(看護問題の明確化) (1) 看護診断と共同問題 (2) 看護診断とPES方式による表記 (3) 共同問題の表記 (4) 優先順位の設定と問題リスト作成
10	3) 看護計画立案 (1) 目標の明確化と表記方法 (2) 看護診断と共同問題の看護計画の相違点
11	◆看護過程・事例展開 演習・GW⑤ ・看護診断・看護計画立案

12	◆看護過程・事例展開 演習・GW⑥ ・看護診断・看護計画立案
13	4) 実施 （1）実施の流れと実施後評価 （2）実施の記録の方法（SOAP法による記録） 5) 評価 （1）評価を行う時期と評価の進め方 （2）評価の記録
14	◆看護過程・事例展開 演習・GW⑦ ・実施・評価 ※実習室で計画を実施する
15	看護過程 発表会 まとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	○	九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科						
	看護研究				担当者名		石井 知亜子				
授業科目名	看護研究				担当者名		石井 知亜子				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			
授業概要	研究活動の意義を理解し、専門的知識・技術の創造と開発に努めることの重要性を学ぶ。事例を通し、研究手法に準じた実践から論文を作成する。										
到達目標	①看護研究の意義を述べることができる。 ②事例研究から論文を作成することができる。										
成績評価	出席状況および研究論文と客観式試験の総合評価										
その他	石井知亜子（実務経験なし）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	系統看護学講座別巻 看護研究	坂下 玲子	医学書院
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	専門職者としての研究活動
2	討議法
3	研究の種類と特徴
4	研究における倫理
5	看護研究のクリティーク
6	事例研究の進み方（1）
7	事例研究の進み方（2）
8	研究論文の構成とまとめ方
9	事例研究の実際に関するガイダンス
10	研究活動（1）
11	研究活動（2）
12	研究活動（3）
13	研究活動（4）
14	研究活動（5）
15	プレゼンテーション

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科					
			○						
授業科目名	地域・在宅看護概論Ⅰ			担当者名	松浦 善隆				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	1				授業時間数	前期 30	後期	前期	後期
授業概要	地域の人々の暮らしを知り、暮らしが健康に与える影響について考える。そして地域で暮らす人々がどのように健康の保持・増進をしながら生活しているのかを理解し、地域で暮らし続けるために必要な基礎的な看護を学ぶ。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会の変化と地域・在宅看護の意義を理解することができる。 2. 暮らしの拠点としての地域を理解し、地域の特性、社会資源、地域に暮らす人々の生活を理解することができる。 3. 地域・在宅で生活する人々の健康レベル、ライフステージなどからみる多様性を理解することができる。 4. 地域・在宅で生活する人々のその家族の特徴が理解ができる。 5. 地域での暮らしにおけるリスクの理解ができる。 								
成績評価	筆記試験（50%）、レポート・受講態度（50%）等で総合的に評価する。								
その他	松浦善隆（訪問看護ステーションにおいて看護師として勤務）								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	地域・在宅看護論【1】地域・在宅看護の基盤	河原 加代子	医学書院
参考図書	在宅療養を支えるケア・国民衛生の動向	臺 有桂・構成労働統計協会	メディカ出版 全国官報販売協同組合

回数	授業計画
1	ガイダンス 社会の変化と暮らし 地域・在宅看護の役割
2	暮らしの多様性と共通性の理解 人々の暮らし 暮らしと健康との関係 暮らしと地域
3	1人ひとり異なる暮らし 自分の暮らしの変化
4	暮らしと地域を理解する 地域システム理論 地域包括ケアシステム
5	北九州市の地域の特徴と人々の暮らしの理解 グループワーク①
6	北九州市の地域の特徴と人々の暮らしの理解 グループワーク② フィールドワーク準備①
7	北九州市の地域の特徴と人々の暮らしの理解 グループワーク③ フィールドワーク準備②
8	北九州市の地域の特徴と人々の暮らしの理解 フィールドワーク・インタビュー①
9	北九州市の地域の特徴と人々の暮らしの理解 フィールドワーク・インタビュー②
10	北九州市の地域の特徴と人々の暮らしの理解 グループワーク（発表準備）①
11	北九州市の地域の特徴と人々の暮らしの理解 グループワーク（発表準備）②
12	北九州市の地域の特徴と人々の暮らしの理解 グループワーク（発表準備）③
13	北九州市の地域の特徴と人々の暮らしの理解 発表会
14	地域・在宅で生活する人々の理解：ライフステージ・健康レベル・障害からみた対象の特徴 暮らしを支える地域・在宅看護・暮らしの環境を整える看護
15	地域・在宅で生活する人々の家族の理解：家族システム理論 家族の介護力 地域での暮らしにおけるリスクの理解 まとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校							
			○	令和7年度	看護学科						
授業科目名	地域・在宅看護方法論Ⅰ			担当者名	松浦 善隆・原田 奈津子						
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	地域・在宅で生活する療養者とその家族の発達段階・健康状態をアセスメントし、地域・在宅看護マネジメントと多職種連携・多職種チームでの協働を学ぶ。また地域・在宅で生活する療養者とその家族への生活の援助技術を学ぶ。										
到達目標	1. 地域・在宅で生活する療養者とその家族の発達段階・健康状態をアセスメントする視点を理解することができる。 2. 地域・在宅における地域・在宅看護マネジメントと多職種連携・多職種チームでの協働について理解することができる。 3. 地域・在宅で生活する療養者とその家族への生活の援助技術を理解することができる。										
成績評価	筆記試験（80％）・受講態度（20％）等で総合的に評価する。										
その他	松浦善隆（訪問看護ステーションにおいて看護師として勤務）・原田奈津子（実務経験なし）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	地域・在宅看護論【2】地域・在宅看護の実践	河原 加代子	医学書院
参考図書	在宅療養を支えるケア・在宅療養を支える技術	臺 有桂・石田 千絵	メディカ出版

回数	授業計画	
1	地域・在宅における発達段階・健康レベル・時期別の療養者の特徴と看護①	
2	地域・在宅における発達段階・健康レベル・時期別の療養者の特徴と看護②	
3	地域・在宅における発達段階・健康レベル・時期別の療養者の特徴と看護③	
4	地域共生社会における多職種連携・多職種チームでの協働：事例検討①	
5	地域共生社会における多職種連携・多職種チームでの協働：事例検討②	
6	地域・在宅における暮らしを支える安全を守る看護	
7	地域・在宅における暮らしを支える看護技術（療養環境調整の援助）	
8	地域・在宅における暮らしにおける家族を支える看護	
9	地域・在宅における暮らしを支える看護技術（コミュニケーション 療養者・家族とのパートナーシップ）	
10	地域・在宅における暮らしを支える看護技術（食生活・嚥下に関するの援助）	
11	地域・在宅における暮らしを支える看護技術（活動の援助 生活の場におけるリハビリテーション①）	
12	地域・在宅における暮らしを支える看護技術（活動の援助 生活の場におけるリハビリテーション②）	
13	地域・在宅における暮らしを支える看護技術（清潔・衣生活の援助①）	
14	地域・在宅における暮らしを支える看護技術（清潔・衣生活の援助②）	
15	地域・在宅における暮らしを支える看護技術（清潔・衣生活の援助③）	入浴・シャワー浴の介助 22

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	○	九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科						
						担当者名		松浦 善隆			
授業科目名	地域・在宅看護方法論Ⅱ				担当者名		松浦 善隆				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			
授業概要	地域・在宅における医学的管理における基本的なアセスメントとその看護を学ぶ。										
到達目標	1. 地域・在宅看護における医学的管理を要する人の看護を理解することができる。										
成績評価	試験（80％）レポートおよび受講態度（20％）等で総合的に評価する。										
その他	松浦善隆（訪問看護ステーションにおいて看護師として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	地域・在宅看護論【2】地域・在宅看護の実践	河原 加代子	医学書院
参考図書	地域・在宅療養を支えるケア・地域・在宅療養を支える技術	臺 有桂・石田 千絵	メディカ出版

回数	授業計画
1	訪問看護の基礎① 訪問看護の活動
2	訪問看護の基礎② 訪問看護に必要な看護倫理 訪問看護の記録様式
3	訪問看護の基礎③ 訪問の準備とマナー
4	地域・在宅看護における医学的管理を要する人の看護 褥瘡予防とケア スキンケア ストーマ①
5	地域・在宅看護における医学的管理を要する人の看護 褥瘡予防とケア スキンケア ストーマ②
6	地域・在宅看護における医学的管理を要する人の看護 褥瘡予防とケア スキンケア ストーマ③（演習）
7	地域・在宅看護における医学的管理を要する人の看護 排泄ケア（尿道留置カテーテル・自己導尿・膀胱洗浄）
8	地域・在宅看護における医学的管理を要する人の看護 腹膜透析（CAPD）
9	地域・在宅看護における医学的管理を要する人の看護 エンドオブライフケア 全人的ケア がん性疼痛のケア①
10	地域・在宅看護における医学的管理を要する人の看護 エンドオブライフケア 全人的ケア がん性疼痛のケア②
11	地域・在宅看護における医学的管理を要する人の看護 エンドオブライフケア 全人的ケア がん性疼痛のケア③
12	地域・在宅看護における医学的管理を要する人の看護 在宅経管栄養（HEN） 在宅中心静脈栄養（HPN）
13	地域・在宅看護における医学的管理を要する人の看護 在宅酸素療法（HOT） 非侵襲的陽圧換気療法（NPPV） 在宅人工呼吸療法（TPPV）
14	地域・在宅看護における医学的管理を要する人の薬物療法①
15	地域・在宅看護における医学的管理を要する人の薬物療法②

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	○	九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科						
						担当者名		松浦 善隆			
授業科目名	地域・在宅看護演習Ⅰ				担当者名		松浦 善隆				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					
授業概要	地域・在宅で生活する療養者とその家族に対して、医学的管理を中心とした訪問看護における看護過程の展開方法を学ぶ。また訪問看護の実際を学ぶ。										
到達目標	1. 事例に基づき、地域・在宅で生活する終末期の療養者とその家族の発達段階・健康状態をアセスメントし、看護計画の立案ができる。 2. 訪問看護の実際がわかる。										
成績評価	筆記試験（30%）・看護過程（55%）、受講態度（15%）等で総合的に評価する。										
その他	松浦善隆（訪問看護ステーションにおいて看護師として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	地域・在宅看護論【1】地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論【2】地域・在宅看護の実践	河原 加代子	医学書院
参考図書	在宅療養を支える技術・在宅療養を支えるケア看護診断ハンドブック	臺 有桂・石田 千絵 リンダJ. カルペニート	メディカ出版 医学書院

回数	授業計画
1	ガイダンス 在宅での看取りの看護 訪問看護の情報集方法 事前学習 癌末期療養者の情報提示
2	看取りの看護 情報整理 データベースアセスメント①
3	情報整理 データベースアセスメント②
4	データベースアセスメントの視点 情報整理 データベースアセスメントの修正・追加
5	フォーカスアセスメント（診断ブック：情報整理 現状分析・原因・誘因 成り行き）の視点 フォーカスアセスメント・関連図・問題リスト①
6	フォーカスアセスメント・関連図・問題リスト②
7	フォーカスアセスメント・関連図・問題リスト③
8	事例に基づいたフォーカスアセスメント・看護目標の視点 フォーカスアセスメント・関連図・問題リスト④
9	事例に基づいたフォーカスアセスメント・看護目標の視点 フォーカスアセスメント・関連図・問題リスト④
10	フォーカスアセスメント・関連図・問題リスト 修正①
11	看護目標 看護計画の視点 看護目標 看護計画立案①
12	看護目標 看護計画立案②
13	事例に基づいた看護目標・看護計画の視点 看護目標 看護計画修正・追加①
14	看護目標 看護計画修正・追加②
15	訪問看護の実際（外部講師：末永講師）

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
			○	令和7年度	看護学科				
授業科目名	成人看護学概論			担当者名	橋本 真美				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期
						30			
授業概要	ライフサイクルにおける成人期の位置づけ、成人の特徴・発達課題を理解するとともに、成人を取り巻く社会や生活環境、保健医療システム、家族形態や機能、文化的背景、社会福祉・資源の動向などから、成人期の患者と家族に起こりやすい健康上の問題を理解する。また健康上の問題に対する成人特有の反応を理解し、成人期にある人と家族に対する保健医療システムとそのあり方、看護とその方法について学ぶ。								
到達目標	大人を包括的に理解し、多様な健康状態や健康問題に関する基本的な知識を述べることができる。								
成績評価	終講試験（100%）								
その他	橋本真美（病院脳神経外科において看護師として勤務）								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学① 成人看護学総論	著者代表 小松浩子	医学書院
	国民衛生の動向		厚生労働統計協会
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	第1章 成人と生活 A 大人とはGW
2	第1章 成人と生活 B 生活とはGW
3	第2章 生活と健康 A. B
4	第3章 成人への看護アプローチの基本 A. B
5	第3章 成人への看護アプローチの基本 C 信頼関係とはGW
6	第3章 成人への看護アプローチの基本 D. E
7	第3章 成人への看護アプローチの基本 F
8	第3章 成人への看護アプローチの基本 G 倫理的支援とはGW
9	第3章 成人への看護アプローチの基本 H 意思決定とはGW
10	第4章 ヘルスプロモーションと看護
11	第5章 健康をおびやかす要因と看護、第6章 健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護
12	第6章 健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護
13	第7章 慢性期とともに生きる人を支える看護
14	第8章 障害がある人の生活とリハビリテーション、第11章 新たな治療法、先端医療と看護
15	第9章 人生の最期のときを支える看護、第10章 さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野						
					○						
授業科目名	成人看護学方法論Ⅰ					担当者名	鯨臥 絵里子				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				
授業概要	成人看護学方法論Ⅰでは、「セルフマネジメントに向けての看護」とし、慢性疾患を器官系統別に主な疾患、症状・徴候、検査と治療に応じた看護について学ぶ。成人が何らかの慢性的な病をもったときに、生活者としてどのように病気と家庭生活、社会生活の折り合いをつけて、自分らしく生きていくのか、その支援方法を学び考える。実践に活かせるセルフマネジメント理論と個々のもてる力、機能を引き出す支援や援助方法を学ぶ。										
到達目標	①慢性期看護に必要となる理論・考え方を説明できる。 ②代表的な慢性期疾患における看護の考え方を学び、提供する看護の特徴を説明できる。										
成績評価	終講試験（100%）										
その他	鯨臥絵里子（病院手術室において看護師として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	1) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [1] 成人看護学総論, [2] 呼吸器, [3] 循環器, [5] 消化器, [6] 内分泌・代謝, [7] 脳・神経, [8] 腎・泌尿器, [11] アレルギー 膠原病 感染症 2) 系統看護学講座 別巻 がん看護学	1) [1] 小松浩子ほか [2] 浅野浩一郎ほか [3] 松田直樹ほか [5] 南川雅子ほか [6] 黒江ゆり子ほか [7] 井手隆文ほか [8] 今井亜矢子ほか [11] 岩田健太郎ほか 2) 小松浩子	医学書院
参考図書	ナーシング・グラフィカ 成人看護学③ セルフマネジメント	安酸史子・鈴木純恵・吉田澄恵編	メディカ出版

回数	授業計画	
1	慢性期看護を理解するためのセルフマネジメントの理論	セルフマネジメントとは／自己効力理論
2		セルフマネジメントのための対象理解
3		エンパワメントモデル
4		病みの軌跡／疾病の受け入れ過程
5		行動変容／マネジメント／成人教育の特徴
6	セルフマネジメントを目指す看護の実際	COPD患者への看護
7		慢性心不全患者への看護
8		ALS患者への看護
9		肝硬変患者への看護
10		糖尿病患者への看護
11		慢性腎臓病患者への看護
12	白血病患者への看護	
13	臨床判断	臨床判断とは
14		「えっ、どうしよう」と思った場面を振り返る
15		事例で読み解く臨床判断

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校							
			○	令和7年度	看護学科						
授業科目名	成人看護学方法論Ⅱ			担当者名	鯨臥絵里子 橋本 真美						
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			
授業概要	急性期看護の特徴と急性期に必要な理論を理解し、急性期にある対象の特徴、疾病や治療、周手術期看護について学ぶ。急性期にある対象とその家族に対してアセスメントに必要な看護の視点を明確にし、生命の危機的状況や日常生活と異なる状況にある対象の回復過程を知り、早期回復及び障害に応じた生活の自立に向けた看護を学ぶ。										
到達目標	①生命の危機的状況にある患者の身体的・精神的・社会的状況をアセスメントし、適切な看護援助を考えることができる。 ②周手術期の看護を系統疾患別に学び、急性期看護の特徴や急性期について説明することができる。 ③身体的機能回復の促進とその人らしく生きることを支援する方法について説明できる。 ④患者やその家族を含めて、生活の自立に向けた看護を説明できる。										
成績評価	終講試験（100%）										
その他	鯨臥絵里子（病院手術室において看護師として勤務）・橋本真美（病院脳神経外科において看護師として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	系看別巻1臨床外科看護総論、系統看護学講座専門2.3.5.7.10	矢永 勝彦ほか	医学書院
参考図書	系看別巻2 臨床外科看護各論		医学書院

回数	授業計画			
1	第1章 外科医療の基礎 A外科的治療の特徴と変遷 B手術侵襲と生体の反応 C炎症 D感染症			鯨臥
2	第1章 E創傷治療／第2章 外科的治療を要する疾患・症状 A外科的治療の適応 B腫瘍 C外傷・熱傷とショック			鯨臥
3	第4章 外科的治療の実際 A外科的基本手技			鯨臥
4	第4章 b低侵襲手術 C臓器移植			鯨臥
5	周術期にある患者と家族への看護 ①術前・術中・術後の看護 ②術後合併症と予防			鯨臥
6	肺切除術を受ける患者の看護 1. 肺がんの特徴・検査・治療 2. 術前のアセスメント、術後合併症のリスクアセスメント、合併症予防と看護			橋本
7	消化・吸収機能障害のある患者の看護 1. 腫瘍の病因・分類・検査・処置を受ける患者の看護 2. 術前・術後の看護・アセスメント			橋本
8	胃切除術を受ける患者の看護 1. 胃がんの分類・検査・治療 2. 術前のアセスメント、術後合併症のリスクアセスメント、合併症予防と看護			橋本
9	食道再建術を受ける患者の看護 1. 食道がんの分類・検査・治療 2. 術前のアセスメント、術後合併症のリスクアセスメント、合併症予防と看護			橋本
10	乳腺機能障害のある患者の看護 1. 乳腺の疾患について 2. 術前・術後の看護・術後に起こりやすい障害と回復への指導			橋本
11	循環機能障害のある患者の看護 1. 検査（心カテ・血管造影）・処置を受ける患者の看護 2. 治療（CABG、血栓溶解療法）を受ける患者の看護			鯨臥
12	経皮的冠動脈インターベンション（PCI）を受ける患者の看護 1. PCIの種類、適応、禁忌 2. PCI時の看護			鯨臥
13	心臓手術を受ける患者の看護 1. 術後合併症のリスクアセスメント、合併症予防と看護 2. 心臓リハビリテーションについて			鯨臥
14	脳神経機能障害のある患者の看護 1. 脳・神経疾患の特徴と治療の特徴 2. 開頭手術適応の疾患と検査 3. 開頭手術を受ける患者の看護 4. 社会復帰に向けての援助			鯨臥
15	脳腫瘍・脳動脈瘤摘出術を受ける患者の看護 1. 術前のアセスメント 2. 術後合併症のリスクアセスメント、合併症予防と看護			鯨臥

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科					
			○						
授業科目名	成人看護学方法論Ⅲ			担当者名	橋本 真美				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期
							30		
授業概要	がんの動向をとらえ、がん看護についての概要を学ぶとともに、緩和ケアを必要とする成人とその家族への看護、終末期にある成人とその家族への看護について学ぶ。その学習過程において、全人的苦痛の緩和とその人らしく生きるための看護について理解を深める内容とする。								
到達目標	①終末期とは何か、全人的苦痛とは何かを述べることができる。 ②事例紹介から終末期の看護を考えることができる。								
成績評価	終講試験（レポート含む）により、総合的に評価する。								
その他	橋本真美（病院脳神経外科において看護師として勤務）								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑥ 緩和ケア 系統別看護学講座 別巻 がん看護学	宮下 光令 小松 浩子他	メディカ出版 医学書院
参考図書	講義時に随時紹介する		

回数	授業計画
1	がんの動向と看護
2	がん患者の看護
3	がん治療に対する看護（1）
4	がん治療に対する看護（2）
5	がん治療に対する看護（3）
6	がん治療に対する看護（4）
7	がん治療に対する看護（5）技術演習 （技術No. 45・46・67 薬剤等の管理/輸血の管理/人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策演習を含む）
8	緩和ケア概論 レポート記載
9	緩和ケアのコミュニケーション
10	全人的ケアの実践
11	全人的ケアの実践
12	全人的ケアの実践（各期の緩和ケア）
13	意思決定・倫理的課題
14	非がん疾患の緩和ケア
15	ホスピス・緩和ケアの看護について（外部講師予定）
	終講試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野						
					○						
授業科目名	成人看護学演習 I					担当者名	鯨臥 絵里子				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					
授業概要	慢性的経過をたどり、生涯に渡ってセルフマネジメントが必要な成人期にある対象の機能障害及び健康レベルに応じた事例を基に、看護過程を展開する。さらに、セルフマネジメント支援に必要な技術演習を行う。										
到達目標	①慢性期の事例を基に看護過程の展開ができる。 ②慢性期看護に必要な技術として「指導」の方法を習得する。 ③慢性期で必要となる看護技術を修得する。										
成績評価	終講試験（40%） 課題レポート、演習参加態度、授業態度、出席状況（60%）										
その他	鯨臥絵里子（病院手術室において看護師として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	系統看護学講座 成人看護学⑤内分泌・代謝	著者代表 南川雅子	医学書院
参考図書	看護診断ハンドブック最新版	リンダ J. カルペニート	医学書院

回数	授業計画
1	事例配布
2	個人ワーク：データベースアセスメント
3	G.W.：フォーカスアセスメント 関連図
4	G.W.：看護診断の決定 優先順位の決定
5	個人ワーク：看護計画立案
6	G.W.：看護計画の詳細化 指導内容の検討
7	G.W.：指導案作成（食事指導、簡易自己血糖測定）
8	同上
9	発表：指導内容（食事指導について） 演習：No. 4 個人ワーク：発表した内容をSOAP記録に起こす
10	発表：指導内容（食事指導・簡易血糖測定について） 演習：No. 4, 54 個人ワーク：発表した内容をSOAP記録に起こす
11	発表：指導内容（簡易血糖測定について） 演習：No. 54 個人ワーク：発表した内容をSOAP記録に起こす
12	G.W.：指導内容の検討（インスリン自己注射、フットケア、シックデイについて）
13	発表：指導内容（インスリン自己注射、フットケア、シックデイについて） 個人ワーク：発表した内容をSOAP記録に起こす
14	演習：No. 22 口腔内・鼻腔内吸引 No. 33 気管内吸引 No. 69 安楽な体位の調整 No. 70 安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア No. 71 精神的安寧を保つためのケア
15	まとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	○	九州医療スポーツ専門学校						
					令和7年度	看護学科					
授業科目名	成人看護学演習Ⅱ				担当者名	村山由起子・鯨臥絵里子					
授業形態単位数	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					
授業概要	急性期にある成人の状態をアセスメントし、合併症予防や回復を促進するための看護について事例を通して学ぶ。また、シミュレーション演習を通して、気づきやアセスメント能力を高め、急性期に特徴的な看護技術を習得する。										
到達目標	①急性期（周術期）看護で必要となる看護技術を修得する。 ②急性期にある患者及びその家族への看護過程の展開及び具体的な援助方法について、科学的根拠を基に説明できる。										
成績評価	終講試験（60%） 課題レポート, 授業態度, 出席状況（40%）										
その他	村山由起子（病院ICUにおいて看護師として勤務）・鯨臥絵里子（病院手術室において看護師として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	看護診断ハンドブック最新版 講義資料、成人看護学方法論Ⅱで使用したテキスト	リンダJ. カルベニート	医学書院
参考図書	講義時に随時紹介する		

回数	授業計画	
1	講義ガイダンス（講義の進め方、評価について、演習上の約束事項の説明など） 既習項目の確認、事例提示、必要な情報とアセスメントの視点の抽出	村山
2	消化器がんにより手術を受ける成人の思考過程の展開 フェイスシートの記入	村山
3	ゴードンの機能的パターンによる情報の分析・解釈（1）データベースアセスメント	村山
4	ゴードンの機能的パターンによる情報の分析・解釈（2）フォーカスアセスメント	村山
5	情報の統合/関連図の作成/看護診断の特定と優先順位の決定	村山
6	看護診断の優先順位決定までのプロセスのグループ発表	村山
7	看護計画の立案（個人ワーク）	村山
8	看護計画のグループ発表	村山
9	看護計画の実施	村山
10	看護計画の評価	村山
11	演習オリエンテーション、演習のための事前学習	鯨臥
12	術後合併症予防のための看護技術演習 ①術前オリエンテーション、術後合併症予防のための排痰・呼吸法、弾性ストッキングの装着） ②術直後の観察、術後ケア（初回離床時の看護）③酸素療法	鯨臥
13	④ドレーン管理（技術No.37）、創傷管理（技術No.36 創洗浄・創保護含む）、疼痛管理、輸液管理 等術後合併症予防のための看護技術演習	
14	循環器疾患に対するフィジカルアセスメント演習 （12誘導心電図、技術No.68 酸素ボンベの取り扱い・心電図モニター管理等）	鯨臥
15	演習リフレクション/まとめ	鯨臥

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野						
					○						
授業科目名	老年看護学概論					担当者名	松村久美				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				
授業概要	高齢者の多様性を理解し「その人らしさ」を支える看護を理解するためには、高齢者を取り巻く現状を学び、地域でどのように生活しているのかを知ることが大切である。その方法として、倫理や社会制度、発達課題や倫理的問題を学び、高齢者体験を踏まえて高齢者の特徴と看護を理解する。										
到達目標	①高齢者を取り巻く環境を述べることができる。 ③老年看護の特徴を理解し述べるができる。 ②高齢者の特徴を理解し、記述できる。										
成績評価	筆記試験・授業内のレポート・出席状況などで評価										
その他	松村久美（病院精神科において看護師として勤務）										

使用教材	書籍名		著者名		出版社名
教科書	系統看護学講座	専門分野 老年看護学	北川公子 他		医学書院
	系統看護学講座	専門分野 老年看護 病態・疾	北川公子 他		医学書院
参考図書	授業中に適宜提示				

回数	授業計画		
1	ガイダンス	老年期の理解 高齢者のイメージ	松村
2	老いるということ	加齢に伴う変化の特徴（身体的）とその生活への影響	松村
3	老いるということ	加齢に伴う変化の特徴（精神的・社会的）とその生活への影響	松村
4	老いるということ	高齢者の発達課題 生活の視点からの老年期の理解	松村
5	老年看護の成り立ち	老年看護の役割	松村
6	老年看護の成り立ち	理論・概念	松村
7	超高齢社会と社会保障	超高齢社会の現況 保健医療福祉の動向	松村
8	超高齢社会と社会保障	高齢者の人権問題と倫理的課題 権利擁護	松村
9	身体拘束		松村
10	身体拘束		松村
11	老年看護の特徴	高齢者のヘルスアセスメント① ヘルスアセスメントの基本	松村
12	老年看護の特徴	高齢者のヘルスアセスメント① ヘルスアセスメントの基本	松村
13	老年看護の特徴	高齢者のヘルスアセスメント③ 身体に加齢変化とアセスメント	松村
14	高齢者体験	高齢者の特徴と老年看護の視点	松村
15	高齢者体験	高齢者の特徴と老年看護の視点	松村

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野			令和7年度	九州医療スポーツ専門学校 看護学科				
			○								
授業科目名	老年看護学方法論 I					担当者名	縄田 由美				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	高齢者は加齢によって、身体的、精神的、社会的な側面に様々な変化をきたす。さらにそれらの変化は、高齢者の生活機能へ大きな影響を及ぼし、結果としてQOLを左右することになる。加齢に伴う変化とそれに伴う生活機能への影響について理解し、必要な援助を考える。										
到達目標	①高齢者の加齢に伴う変化のメカニズムを、解剖生理学の知識をふまえ専門用語を用いて説明できる ②高齢者の加齢に伴う変化が日常生活にどのように影響するのかを考え、言語化し、表現することができる ③高齢者の加齢に伴う日常生活への影響をアセスメントする視点、生活を支える具体的な看護がわかる										
成績評価	出席状況、授業態度、提出物、ミニテスト、終講試験での総合評価										
その他	縄田由美（病院精神科において看護師として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学	北川公子 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論	北川公子 他	医学書院
参考図書	授業の中で適宜提示		

回数	授業計画	
1	身体の高齢変化とアセスメント（復習：ミニテスト）、高齢変化の日常生活への影響	縄田
2	生活機能を整える看護：基本動作と環境のアセスメント、転倒のアセスメントと看護	縄田
3	生活機能を整える看護：転倒のアセスメントと看護（事例）	縄田
4	生活機能を整える看護：廃用症候群のアセスメントと看護、ミニテスト	縄田
5	生活機能を整える看護：食事・食生活に対する看護	縄田
6	生活機能を整える看護：排泄に対する看護	縄田
7	生活機能を整える看護：清潔に対する看護、生活リズム	縄田
8	生活機能を整える看護：セクシュアリティ・社会参加、コミュニケーション	縄田
9	生活機能を整える看護：コミュニケーション（事例）、ミニテスト	縄田
10	健康逸脱からの回復を促す看護：症候のアセスメントと看護（発熱、痛み、搔痒感）	縄田
11	健康逸脱からの回復を促す看護：症候のアセスメントと看護（脱水、浮腫）	縄田
12	健康逸脱からの回復を促す看護：症候のアセスメントと看護（褥瘡、スキンテア）、ミニテスト	縄田
13	事例を通して考えるアセスメントと看護	縄田
14	事例を通して考えるアセスメントと看護	縄田
15	事例を通して考えるアセスメントと看護、単元のまとめ	縄田

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	○	九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科						
	授業科目名 老年看護学方法論Ⅱ				担当者名 松村久美						
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	<p>高齢者は疾患・症候等において、非定型な症状を呈する。また、治療、検査そのものが、高齢者にとっては心身への負担となり、二次的な症候とつながることも珍しくない。したがって、健康を逸脱した高齢者に対する看護の知識を習得することは、高齢社会のなかにあり重要である。</p> <p>また、人生の終焉に向かう高齢者への看護、高齢者の週末期を看取ることの意味とその在り方について学ぶ。</p>										
到達目標	<p>① 加齢に伴う変化を踏まえ、高齢者に多い症状・疾患の特徴とアセスメントの視点を理解できる</p> <p>② 高齢者に多い症状・疾患が高齢者の生活機能に与える影響を考え、二次的な障害の予防を含めた看護を理解できる</p> <p>③ 「認知症」「終末期」「家族」の看護について説明できる。</p> <p>④ 高齢者への治療・処置に対する看護及び入退院時の看護について説明できる。</p> <p>⑤ 高齢者における療養の場の特徴とそれに伴う看護の役割・支援及び家族への看護について説明できる。</p>										
成績評価	筆記試験・出席状況・授業態度・提出物での総合評価										
その他	松村久美（病院精神科において看護師として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学	北川公子 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論	北川公子 他	医学書院
参考図書	授業中に適宜提示		

回数	授業計画	
1	疾患を持つ高齢者への看護：脳卒中・心不全	松村
2	疾患を持つ高齢者への看護：糖尿病・COPD 他	松村
3	疾患を持つ高齢者への看護：悪性新生物 ・パーキンソン症候群他	松村
4	疾患を持つ高齢者への看護：インフルエンザ・肺炎 他	松村
5	認知機能の障害に対する看護：骨粗鬆所・骨折 他	松村
6	認知機能の障害に対する看護：うつ・せん妄・認知症①	松村
7	認知機能の障害に対する看護：うつ・せん妄・認知症②	松村
8	治療を必要とする高齢者の看護：検査・手術・入院治療	松村
9	治療を必要とする高齢者の看護：薬物療法・リハビリテーション	松村
10	エンドオブライフケア・高齢者のQOL	松村
11	生活・療養の場における看護	松村
12	生活・療養の場における看護	松村
13	高齢者のリスクマネジメント 高齢者と医療安全・転倒防止のアセスメントとケア	松村
14	高齢者のリスクマネジメント 高齢者と救命救急 高齢者と災害	松村
15	認知症サポーター養成講座（基礎編）①	松村

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	○	九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科						
	老年看護学演習				担当者名	松村久美					
授業科目名	老年看護学演習				担当者名	松村久美					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			
授業概要	生活者として高齢者を捉えるために必要なアセスメントの視点と、疾患や障害に対するアセスメントの視点を事例を通じて学ぶ。事例患者に必要な看護計画を立案し、演習を通して実践・評価を行い高齢者への看護を学ぶ。										
到達目標	①既知の知識を活用し事例の看護過程の展開を踏まえて加齢変化や疾患が高齢者に及ぼす影響について説明できる。 ②事例の看護過程の展開を踏まえて、対象者に合った看護計画立案・実施・修正を行うことができる。 ③事例を通して生活者としての日常を捉え、生活機能のアセスメントや保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割と責任を認識することができる。										
成績評価	客観的試験・出席状況・授業態度・小テスト（不定期）・提出物での総合評価										
その他	松村久美（病院精神科において看護師として勤務）										

使用教材	書籍名			著者名		出版社名
教科書	系統看護学 系統看護学	講座専門分野 専門分野	老年看護学 老年看護	北川公子 他 北川公子 他	医学書院 医学書院	
参考図書	授業の中で適宜提示					

回数	授業計画		
1	看護過程演習のガイダンス	看護過程の考え方	松村
	看護過程演習 1-①	大腿骨頸部骨折患者 情報の整理	
2	看護過程演習 1-②	大腿骨頸部骨折患者 情報の整理 アセスメント	松村
3	看護過程演習 1-③	大腿骨頸部骨折患者 アセスメント 関連図作成	松村
4	看護過程演習 1-④	大腿骨頸部骨折患者 関連図完成	松村
5	看護過程演習 1-⑤	大腿骨頸部骨折患者 アセスメントの統合（関連図・看護の焦点の抽出・看護目標）	松村
6	看護過程演習 1-⑥	大腿骨頸部骨折患者 アセスメントの統合（関連図・看護の焦点の抽出・看護目標）	松村
7	看護過程演習 1-⑦	大腿骨頸部骨折患者 看護計画立案	松村
8	看護過程演習 1-⑧	大腿骨頸部骨折患者 看護過程の展開 意見交換	松村
9	看護過程演習 2-①	グループワーク 演習の事例看護展開 高齢者のヘルスアセスメントの復習	松村
10	看護過程演習 2-②	グループワーク 演習の事例看護展開 看護計画立案 パンフレット作成	松村
11	看護過程演習 2-③	グループワーク 演習の事例看護展開 計画に沿っての援助演習①	松村
12	看護過程演習 2-④	グループワーク 演習の事例看護展開 計画に沿っての援助演習②	松村
13	看護過程演習 2-⑤	演習事例看護展開	松村
14	看護過程演習 2-⑥	演習事例看護展開	松村
15	看護過程演習 2-⑦	グループワーク 各グループのまとめ（学び・気付き）発表	松村

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	○	令和7年度	九州医療スポーツ専門学校 看護学科					
	授業科目名 小児看護学方法論 I					担当者名 川越 倫子					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					
授業概要	小児内科（一部小児外科）疾患の病態・診断を中心に、看護学生として知っておくべき疾患を概説する。特に先天性疾患、申請実感や感染症については重点を置き講義する。										
到達目標	小児疾患の診断、治療についての知識を習得する。										
成績評価	終講後の試験による。										
その他	川越倫子（病院小児科において医師として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学② 小児臨床看護各論	執筆	医学書院
参考図書			

回数	授業計画
1	小児の感染症（1）
2	小児の感染症（2）
3	染色体異常や胎内環境により発症する先天異常
4	新生児の疾患（1）
5	新生児の疾患（2）
6	代謝性疾患
7	内分泌疾患
8	免疫疾患、アレルギー性疾患、リウマチ疾患
9	小児の呼吸器疾患
10	小児の循環器疾患
11	小児の消化器疾患（1）
12	小児の消化器疾患（2）
13	血液・造血器疾患、悪性新生物
14	神経疾患
15	腎疾患、その他

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
			○	令和7年度	看護学科				
授業科目名	小児看護学方法論Ⅱ			担当者名	杉山恵子・小山京子				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期
						30			
授業概要	子どもに健康問題が生じた場合は、家族の悲しみやとまどいははかりしれず、より専門的できめの細かい支援が求められる。そのためここでは、子どもを一人の人間として捉え尊重できるように、主な疾患・症状の看護、子供の状況（環境）や疾病の経過における子どもと家族の看護、子どもの虐待と看護について主に学習していく。								
到達目標	①小児の状況や疾病の経過における子どもと家族の看護について述べることができる。 ②小児の健康障害の特徴を理解し、起こりやすい症状に対する看護について述べるができる。 ③各疾患の経過から、症状・病態・検査・治療、看護のアセスメント、具体的看護援助について述べるができる。								
成績評価	出席状況・レポート40%・筆記試験60%								
その他	杉山恵子（病院小児科において看護師として勤務）・小山京子（医院小児科において看護師として勤務）								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論	著者代表 奈良間美保	医学書院
	系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論	著者代表 奈良間美保	医学書院
参考図書			

回数	授業計画	
1	病気・障害を持つ子どもと家族の看護 A 病気・障害が子どもと家族に与える影響 B 子どもの健康問題と看護	小山
2	子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護 A 入院中の子どもと家族の看護 B 外来における子どもと家族の看護	小山
3	子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護 C 在宅療養中の子どもと家族の看護 D 災害時の子どもと家族の看護	小山
4	子どもにおける疾病の経過と看護 A 慢性期にある子どもと家族の看護 D 終末期の子どもと家族の看護	小山
5	子どもにおける疾病の経過と看護 B 急性期にある子どもと家族の看護 C 周手術期の子どもと家族の看護	小山
6	症状を示す子どもの看護 ①不きげん②啼泣③痛み④呼吸困難⑤チアノーゼ	小山
7	症状を示す子どもの看護 ⑥ショック⑦意識障害⑧けいれん⑨発熱	小山
8	症状を示す子どもの看護 ⑩嘔吐⑪下痢⑫便秘⑬脱水⑭浮腫	小山
9	症状を示す子どもの看護 ⑮出血⑯貧血⑰発疹⑱黄疸	小山
10	障害のある子どもと家族の看護 子どもの虐待と看護	小山
11	主な疾患の看護 循環器疾患と看護	杉山
12	主な疾患の看護 呼吸器疾患と看護/免疫疾患・アレルギー疾患/感染症と看護	杉山
13	主な疾患の看護 代謝性疾患と看護/腎・泌尿器及び生殖器疾患と看護	杉山
14	主な疾患の看護 染色体異常・胎内環境により発生する先天異常とその看護/消化器疾患と看護/悪性新生物と看護	杉山
15	主な疾患の看護 運動器疾患と看護/神経疾患と看護/事故・外傷と看護	杉山

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科					
					○						
授業科目名	小児看護学演習					担当者名	杉山恵子・小山京子				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									30		
授業概要	子どもは的確に訴えを表現することができにくく、親の反応や訴えも異なる。そのため、適切なアセスメントと治療・処置・検査の看護が行えるように基礎的看護技術を理解する。また、子どもに起こりやすい疾病・健康障害の事例を取り上げ、看護過程の展開方法について学習していく。										
到達目標	①小児看護で必要となる看護技術を修得する。 ②小児の健康上の問題を解決するため、看護過程の展開方法が分かる。										
成績評価	出席状況・レポート約40%・筆記試験約60%										
その他	杉山恵子（病院小児科において看護師として勤務）・小山京子（医院小児科において看護師として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論	著者代表 奈良間美保	医学書院
	系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論	著者代表 奈良間美保	医学書院
	看護診断ハンドブック 第12版	著 リンダ J. カルペニート 監訳 黒江 ゆり子	医学書院
参考図書			
1	コミュニケーション技術・プレパレーションの意義と手法		杉山
2	身体計測技術とアセスメント		杉山
3	バイタルサイン測定技術とアセスメント		杉山
4	活動制限と抑制技術		杉山
5	日常生活援助技術		杉山
6	検体採取技術		杉山
7	処置技術		杉山
8	小児看護技術演習「No.31 ネブライザーを用いた気道内加湿」他		杉山
9	子どもの発達段階について振り返り 看護過程の展開方法についてガイダンス、事例配布		小山
10	看護過程の展開 ①		小山
11	看護過程の展開 ②		小山
12	看護過程の展開 ③		小山
13	看護過程の展開 ④		小山
14	看護過程の展開 ⑤		小山
15	看護過程の展開 ⑥ まとめ		小山

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科					
			○						
授業科目名	母性看護学方法論 I			担当者名	檜崎 久美子				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期
							30		
授業概要	妊娠期・分娩期・産褥期の経過と、妊婦・産婦・褥婦および新生児の特徴を理解し看護の方法を学ぶ。								
到達目標	・正常な妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の経過と看護について複数問題の中から正し解答を選ぶことができる。								
成績評価	筆記試験 100%								
その他	檜崎久美子（病院産科において助産師として勤務）								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	系統看護学講座 専門 母性看護学各論 母性看護学②		医学書院
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	妊娠期の身体的特徴 ①妊娠の生理②胎児の発育とその生理③母体の生理的変化
2	妊娠期の心理、社会的特徴 ①妊婦の心理②妊婦と家族および社会
3	妊婦と胎児のアセスメント
4	妊婦と家族の看護
5	分娩の要素
6	分娩の経過
7	産婦、胎児、家族のアセスメント
8	分娩期の看護の実際 ①分娩1期②分娩2期③分娩3期、4期
9	産褥の経過 ①産褥期の身体的変化②産褥期の心理、社会的変化
10	褥婦のアセスメント ①産褥経過の診断②褥婦の健康状態のアセスメント
11	褥婦と家族の看護 ①身体機能の回復及び進行性変化への看護②児との関係確立、育児技術にかかわる看護
12	施設退院後の看護 ①育児不安と育児支援②職場復帰
13	新生児の生理
14	新生児のアセスメント ①新生児の診断②新生児の健康状態のアセスメント
15	新生児の看護 ①出生直後の看護②出生後から退院時までの看護

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	○	九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科						
	授業科目名 母性看護学方法論Ⅱ				担当者名		檜崎 久美子				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	1. 正常経過を逸脱した妊婦、産婦、褥婦、新生児の看護を学ぶ。 2. 女性におこりやすい生殖器の疾患とその看護を学ぶ。										
到達目標	・ 正常を逸脱した妊婦、産婦、褥婦、新生児の看護について複数解答の中から正し解答を選択することができる。 ・ 女性生殖器の看護について複数解答の中から正しい解答を選択することができる。										
成績評価	筆記試験 100%										
その他	檜崎久美子（病院産科において助産師として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	系統看護学講座専門 母性看護学各論母性看護学② 系統看護学講座専門 女性生殖器 成人看護学⑨		医学書院
参考図書			

回数	授業計画
1	妊娠の異常と看護
2	妊娠の異常と看護
3	分娩の異常と看護
4	分娩の異常と看護
5	産褥の異常と看護
6	産褥の異常と看護
7	新生児の異常と看護
8	新生児の異常と看護
9	精神障害合併妊婦と家族の看護
10	女性生殖器の構造と機能 症状とその病態生理
11	診察、検査と治療・処置
12	疾患の理解と看護 ①性分化疾患
13	疾患の理解と看護 ②臓器別疾患
14	疾患の理解と看護 ③機能的疾患
15	疾患の理解と看護 ④感染症

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科					
					○						
授業科目名	母性看護学演習					担当者名		檜崎 久美子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	・母性看護技術の基礎を習得し、妊婦・産婦・褥婦・新生児の健康レベルに応じた看護展開について理解する。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦、産婦、褥婦、新生児の看護の方向性を述べることができる。 ・看護目標の根拠を考えることができる。 ・褥婦、新生児の必要な情報収集が分かり、アセスメントの方法が言える。 ・褥婦、新生児の標準看護計画が分かる。 										
成績評価	レポート20% 授業態度・演習20% 筆記試験60%										
その他	檜崎久美子（病院産科において助産師として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	系統看護学講座 専門 母性看護学各論 母性看護学②		医学書院
	看護診断ハンドブック	リンダJ.カルペニート	医学書院
参考図書	ウエルネス看護診断にもとづく看護過程 第3版	太田 操	医歯薬出版株式会社
	カラー写真で学ぶ周産期の看護技術	榎引 美代子	医歯薬出版株式会社

回数	授業計画
1	妊娠期の看護に必要な看護技術（レオポルド触診法・子宮底の計測）
2	分娩期の看護に必要な看護技術（胎盤、臍帯の観察・胎児心拍陣痛図の判読）
3	産褥期の看護に必要な看護技術（授乳指導）
4	新生児期の看護に必要な看護技術（バイタルサイン測定・身体計測・沐浴）
5	新生児期の看護に必要な看護技術 演習『No.28 新生児の沐浴・清拭』
6	看護過程Ⅰ ～ウエルネス看護診断について～
7	看護過程Ⅱ ～正常な妊婦・産婦・褥婦（新生児）の看護過程～
8	看護過程Ⅲ ～正常な妊婦・産婦・褥婦（新生児）の看護過程～
9	看護過程Ⅳ ～正常な妊婦・産婦・褥婦（新生児）の看護過程～
10	看護過程Ⅴ ～正常な妊婦・産婦・褥婦（新生児）の看護過程～
11	看護過程Ⅵ ～正常な妊婦・産婦・褥婦（新生児）の看護過程～
12	看護過程Ⅶ ～正常な妊婦・産婦・褥婦（新生児）の看護過程～
13	看護過程Ⅷ ～正常な妊婦・産婦・褥婦（新生児）の看護過程～
14	看護過程Ⅸ ～正常な妊婦・産婦・褥婦（新生児）の看護過程～
15	まとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	○	九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科						
	精神看護学概論				担当者名		焼山 和憲				
授業科目名	精神看護学概論				担当者名		焼山 和憲				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				
授業概要	精神看護学の位置づけと精神看護の対象および対象を取り巻く環境、現代社会の特性と問題点を理解するとともに、対象の健康保持・増進および自立的な日常生活を送るための看護の役割、精神保健福祉活動の基本的な考え方について理解する										
到達目標	①精神看護の歴史を知る。 ②精神看護の対象や制度の知識を習得する。										
成績評価	筆記試験と課題レポート										
その他	焼山和憲（病院精神科において看護師として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	系統看護学講座 専門分野精神看護学①精神看護の基礎	編著：武井 麻子	医学書院
参考図書	はじめての精神看護学（増補版）	編著：焼山 和憲	花書院

回数	授 業 計 画
1	精神看護の世界
2	精神の健康と不健康
3	ストレスと危機モデル
4	心の働き
5	自己分析
6	自我防衛と精神分析
7	心の仕組みと人格、DVD学習 I
8	DVD学習 I - 3
9	ライフサイクルにおける精神保健
10	社会の中の精神保健
11	精神科における倫理的問題と人権
12	家族の中の社会病理
13	精神医療の歴史①
14	精神医療の歴史②
15	精神障害と法制度

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	○	令和7年度	九州医療スポーツ専門学校 看護学科			
授業科目名	精神看護学方法論Ⅱ				担当者名	縄田 由美			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期
							30		
授業概要	精神看護学の位置づけを理解し、精神看護を実践するために必要な知識・理論・技法について学ぶ。また、主な精神症状、精神疾患、入院環境及び地域生活支援の知識を整理しつつ、患者-看護師関係を基盤とした看護介入の方法を学習する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 精神看護の考え方とその役割・専門性を理解する ② 精神科病棟の治療環境の特徴と看護師の役割について、安全・人権の視点を含めて理解する ③ 精神障害をもつ人との関係の構築・発展のための技術を理解する ④ 主な精神症状、行動障害の看護について理解する 								
成績評価	終講試験、ミニテスト、ポートフォリオ								
その他	縄田由美（病院精神科において看護師として勤務）								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書			
参考図書			

回数	授業計画
1	精神看護の考え方と役割、精神看護の専門性
2	治療的環境と患者の生活
3	入院における環境調整、リスクマネジメントと看護
4	入院中の観察とアセスメント
5	薬物療法と看護
6	精神障害をもつ人との患者-看護師関係とコミュニケーション
7	関係のアセスメント プロセスレコードの活用
8	精神症状の分類 幻覚・妄想のある患者の看護
9	意欲減退状態、抑うつ状態の患者の看護
10	躁状態、興奮・攻撃的患者の看護
11	強迫行為、操作をする患者の看護（強迫性障害、パーソナリティ障害）
12	摂食障害、不眠・不安状態の患者の看護
13	リエゾン精神看護
14	災害時のメンタルヘルス
15	地域におけるケア

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	○	九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科						
	精神看護学演習				担当者名		縄田 由美				
授業科目名	精神看護学演習				担当者名		縄田 由美				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	精神の健康障害が生活におよぼす影響を考え、精神の健康上の問題に直面している対象への効果的援助技術を習得する。 人権を尊重する立場に立った看護に必要な知識・技術・態度を理解する。										
到達目標	① 精神に障害のある対象の理解を深め、人格を尊重したかかわりや、もっている力を引き出すかかわりが理解できる ② 対人関係に必要な技法を知り、自己と他者の関係を客観的な視点で考えることができる ③ 精神に障害をもつ対象の病期に応じた看護の特徴を理解し、統合失調症の紙上事例の看護過程展開ができる。										
成績評価	出席状況、授業参加態度、課題提出状況、終講試験										
その他	縄田由美（病院精神科において看護師として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	系統看護学専門分野Ⅱ 精神看護学①精神看護の基礎 系統看護学専門分野Ⅱ 精神看護学②精神看護の展開	著：武井 麻子 他	医学書院
参考図書			

回数	授業計画
1	ガイダンス
2	看護過程の展開① フェイスシート
3	看護過程の展開② フェイスシート～データベース 発達段階・発達課題について
4	看護過程の展開② フェイスシート～データベース 発達段階・発達課題について
5	看護過程の展開③ データベース～フォーカスアセスメント
6	看護過程の展開④ フォーカスアセスメント
7	看護過程の展開⑤ 関連図、精神科における薬物療法
8	看護過程の展開⑥ 関連図～問題リスト 看護目標設定
9	看護過程の展開⑥ 関連図～問題リスト 看護目標設定
10	看護過程の展開⑦ 治療的コミュニケーション/看護計画立案
11	プロセスレコード
12	看護過程の展開⑧ 看護計画実施 実習室で演習
13	看護過程の展開⑧ 看護計画実施 実習室で演習
14	プロセスレコード考察
15	まとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	○	九州医療スポーツ専門学校						
					令和7年度	看護学科					
授業科目名	看護管理と医療安全				担当者名	穴井 こそえ 橋本 真美		原田 奈津子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	看護管理では、看護ケアや看護サービスのマネジメント、及び看護を取り巻く諸制度など看護管理に必要な知識と技術について理解する。 医療安全では、国や医療現場での医療安全に対する取り組み、事故発生のメカニズムや発生防止の考えなどを学び、卒業後に臨床で働く基盤として安全な医療と確実な看護を提供するための能力を養う。										
到達目標	1. 看護のマネジメントの内容を述べることができる。 2. 医療事故の発生のメカニズムと発生防止、発生後の対応を述べるができる。										
成績評価	試験90%、授業貢献度10%										
その他	穴井こそえ（実務経験なし）・原田奈津子（実務経験なし）・橋本真美（病院救急外来において看護師長として勤務）										

使用教材	書籍名			著者名			出版社名		
教科書	系統看護学講座	統合分野	看護管理	上泉 和子他			医学書院		
	系統看護学講座	統合分野	医療安全	川村 治子					
参考図書	看護六法								

回数	授業計画									
1	第1章 看護とマネージメント 看護管理学とは 看護におけるマネージメント									
2	第2章 看護ケアのマネージメント 看護ケアのマネージメントと看護職の機能 患者の権利の尊重 安全管理 チーム医療 看護業務の実践									
3	第3章 看護職のセルフマネージメント 第4章 看護サービスのマネージメント 看護サービス提供のしくみづくり									
4	第4章 看護サービスのマネージメント 人材のマネージメント 施設・設備環境・物品のマネージメント 財政のマネージメント 情報のマネージメント サービスの評価									
5	第5章 マネージメントに必要な知識と技術 組織・リーダーシップとマネージメント 組織の調整									
6	第6章 看護を取り巻く諸制度 看護職に関連する法・制度等									
7	第6章 看護を取り巻く諸制度 医療制度 看護政策と制度 看護管理関連資料について まとめ									
8	医療機関における感染管理の実際 (非常勤講師)									
9	序章 医療安全を学ぶことの大切さ 第1章 事故防止の考え方を学ぶ									
10	第2章 診療の補助の事故防止 (I) 患者に投与する業務における事故防止									
11	第3章 診療の補助の事故防止 (II) 継続中の危険な医療行為の観察・管理における事故防止									
12	第4章 療養上の世話の事故防止									
13	第5章 業務領域をこえて共通する間違いと事故防止 第6章 医療安全とコミュニケーション									
14	第7章 看護師の労働安全衛生上の事故防止 第8章 組織的な安全管理体制への取り組み									
15	第9章 医療安全対策の国内外の潮流 まとめ									

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	○	九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科						
	災害看護と国際看護				担当者名	小山 京子		橋本 真美			
授業科目名	災害看護と国際看護				担当者名	小山 京子		橋本 真美			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	災害看護では、災害とは何かを理解し、国内外における救護活動の全体像から、災害時における看護師の役割について理解するとともに、災害救護活動の看護活動に必要な基礎知識を学ぶ。また、国際看護では、国際看護活動とは何かを理解し、看護の国際協力、外国人に対する保健医療・看護活動を推進するための基礎知識を学ぶ。										
到達目標	1. 災害サイクルを理解し、各期の看護を記述できる。 2. 国際看護活動と国際機関の役割を記述できる。										
成績評価	出席状況・授業態度・終講試験などにより総合的に評価する。										
その他	小山京子（実務経験なし）・橋本真美（DMAT（災害派遣医療チーム）において看護師として従事）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際看護学	編集 庄野泰乃・内木美恵・東智子	医学書院
参考図書			

回数	授業計画	
1	災害看護学・国際看護学を学ぶにあたって 災害看護学 災害看護の歩み	小山
2	災害医療の基礎知識 ③災害医療の特徴	橋本
3	災害看護の基礎知識 ③災害医療の特徴 ④マスギャザリングとNBC災害への対応	橋本
4	災害看護の基礎知識 ⑤災害と情報 ⑥災害対応にかかわる職種間連携 ⑦災害看護と法律 ⑧近年の災害における課題と対策	橋本
5	災害看護の基礎知識	橋本
6	災害看護の基礎知識 被災者特性に応じた災害看護の展開	橋本
7	災害時におけるチーム医療（DMAT）	橋本
8	災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護 ①急性期・亜急性期	橋本
9	災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護 ②慢性期・復興期 ③静穏期	橋本
10	災害とこころのケア	橋本
11	一次救命処置 演習「No.47 緊急時の応援要請」「No.48 一次救命処置（BLS）」「No.49 止血法の実際」	橋本
12	国際看護学 健康を取り巻く世界の情勢と国際看護 わが国における文化や制度を考慮した在留外国人への看護の実践	小山
13	国際看護学 国際協力の基礎知識	小山
14	国際看護学 国際協力と看護	小山
15	国際看護学 国際協力と看護 21世紀の国際協力の課題	小山

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科					
					○	担当者名		橋本・杉山・松村・檜崎・鯨臥 ・原田・松浦・縄田			
授業科目名	看護統合ゼミナール					担当者名		橋本・杉山・松村・檜崎・鯨臥 ・原田・松浦・縄田			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										30	
授業概要	国家試験に向けた学習姿勢や継続的に学習する必要性を理解する。前半は、既習の学習を実習と国家試験に向けての想起学習の場とする。後半は、各看護領域における重要な項目の復習を中心に行い、看護実践における自らの課題を見出し、自己の弱点が把握でき、これまでの学習の総まとめ（講義・臨地実習）として、専門基礎分野や各看護領域にて学んだ既習の知識を統合する力を養うことを目指す。										
到達目標	模擬試験を通して、自己の課題に気づき、国家試験対策ができる。										
成績評価	終講試験にて評価する。										
その他	原田奈津子（実務経験なし）・松浦善隆（実務経験なし）・鯨臥絵里子（実務経験なし）・松村久美（実務経験なし）・杉山恵子（実務経験なし）・檜崎久美子（実務経験なし）・縄田由美（実務経験なし）・橋本真美（実務経験なし）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	必要に応じてプリント配布		
参考図書			

回数	授業計画	
1	統合ゼミナールのコンセプトの説明 各領域間の既習の知識の統合：基礎看護学①	橋本・原田
2	各領域間の既習の知識の統合：基礎看護学②	原田
3	国家試験対策（検査データ）	橋本
4	国家試験対策（脳神経編）	橋本
5	国家試験対策（循環器編）	橋本
6	各領域間の既習の知識の統合：基礎看護学③	原田
7	各領域間の既習の知識の統合：地域・在宅看護論	松浦
8	各領域間の既習の知識の統合：成人看護学①	鯨臥
9	各領域間の既習の知識の統合：成人看護学②	鯨臥
10	各領域間の既習の知識の統合：老年看護学	松村
11	各領域間の既習の知識の統合：小児看護学	杉山
12	各領域間の既習の知識の統合：母性看護学①	檜崎
13	各領域間の既習の知識の統合：母性看護学②	檜崎
14	各領域間の既習の知識の統合：精神看護学	縄田
15	各領域間の既習の知識の統合：看護の統合と実践	橋本
	終講試験	

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
			○								
授業科目名	基礎看護学実習 I					担当者名		原田 奈津子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				1	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							45				
授業概要	<p>臨地実習は、対象に対してすでに学んだ知識・技術を用いながら理論と実践の統合を図り、看護を実践する能力を養うことを目的とした学習活動である。基礎看護学実習 I では、看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から理解し、看護に必要な基礎的知識・技術・態度を習得する。また、療養生活の実際を知るとともに、対象の状態を考えた日常生活の援助方法を学ぶ。</p>										
到達目標	<p>①療養環境を述べることができる。 ②既習の学びと施設における看護の実際を統合できる。</p>										
成績評価	出席状況・実習態度・実習記録などにより実習評価項目に沿って総合的に評価する。										
その他	原田奈津子（医院産婦人科において看護師として勤務）										

実習目的	<p>病院の機能を知り、対象の療養生活の実際を理解する。 対象の療養生活を理解し、対象の状態を考えた日常生活の援助技術を学ぶ。</p>
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院の構造や機能を知る。 2. 対象の療養生活を知る。 3. 対象の現在の状態が分かる。 4. 対象の状態に応じた必要な援助を考え、安全・安楽に留意して日常生活の援助ができる。 5. 看護学生として倫理に基づいた行動ができる。
実習方法	<p>臨地実習と学内実習を合わせて下記時間の実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院・病棟のオリエンテーションを受ける。 2. 対象の情報収集、分析・解釈を行う。 3. 対象の状態に応じた援助を行う。 4. 個々の学生の体験を、カンファレンスなどを通してグループメンバーで共有する。 5. リフレクションを通して看護場面・看護実践を振り返り、学びを共有するとともに、看護の意味や価値を考え課題を見出す。 <p>※具体的な実習内容・方法は実習要項参照</p>

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野						
					○						
授業科目名	基礎看護学実習Ⅱ					担当者名	原田 奈津子				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				2	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								90			
授業概要	<p>臨地実習は、対象に対してすでに学んだ知識・技術を用いながら理論と実践の統合を図り、看護を実践する能力を養うことを目的とした学習活動である。基礎看護学実習Ⅱでは、看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から理解したうえで、実際の対象に応じた看護過程を初めて展開する。看護過程の展開を行うことで理論的・科学的な看護の基盤となる考えを養い、看護過程の展開思考・方法を習得する。また、看護援助を行うためには培った態度を基盤とし、知識・技術を用いて、対象に安全・安楽な看護技術を提供できることと、対象の状態を把握し、どのような看護が必要かを考える過程があり、これらについても学ぶ場とする。</p>										
到達目標	<p>①既習の学習を想起し、疾患の病態生理、症状、検査、治療、看護が理解できる。 ②患者を統合的に捉え、看護過程の展開ができる。</p>										
成績評価	出席状況・実習態度・実習記録などにより実習評価項目に沿って総合的に評価する。										
その他	原田奈津子（医院産婦人科において看護師として勤務）										

実習目的	看護の対象に関心を寄せ、対象を身体的・精神的・社会的側面から理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開する基礎的能力を養う。
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象を身体的・精神的・社会的側面から理解できる。 2. 対象の状態に応じた看護過程の展開方法を理解する。 3. 対象の状態に応じた援助技術ができる。 4. 対象と良好な人間関係を築くことができる。 5. 保健・医療・福祉の連携について知ることができる。 6. 看護学生として倫理に基づいた行動ができる。
実習方法	<p>臨地実習と学内実習を合わせて上記時間の実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受け持ち患者の看護過程の展開を通して、対象に必要な看護を導き出す。 2. 自己の看護計画に基づいた看護を実践する。 3. 行った看護内容を評価・考察し、看護計画の修正を行う。 4. 個々の学生の体験を、カンファレンスなどを通してグループメンバーで共有し、メンバーの体験を追体験する。 <p>※具体的な実習内容・方法は実習要項参照</p>

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科					
					○							
授業科目名	地域・在宅看護論実習					担当者名		松浦 善隆				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数				2	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
										90		
授業概要	地域で生活しながら療養する対象と家族を取り巻く環境や状況に応じた地域・在宅看護の実際・社会資源を学ぶ。											
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で暮らすさまざまなライフステージ・健康レベルにある人々や療養する人々とその家族を統合的に理解する。 2. 地域で暮らしながら療養する対象のセルフケアの能力やQOLを考え、そのニーズに応じた看護援助、家族への支援方法がわかる。 3. 地域で暮らしながら療養する対象を支えるために必要な社会資源の活用と、関係職種との連携、継続的な看護の実際を学ぶ。 4. 地域でその人らしく生きることの意義について考え、看護観を深める。 5. 看護学生として倫理に基づいた行動ができる。 											
成績評価	出席状況・実習態度・実習記録等から実習評価項目に沿って総合的に評価する。 ※地域保健活動の場における看護（20%）、地域で暮らしながら療養する対象の看護（80%）											
その他	松浦善隆（訪問看護ステーションにおいて看護師として勤務）											

実習目的	健康を保持・増進し、QOLを向上させるための看護活動を通して、地域で暮らすさまざまなライフステージ・健康レベルにある人々や家族を理解する。そして対象を支える社会資源を知り、現状の生活をふまえた看護援助を行うための基礎的能力を養う。										
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で暮らすさまざまなライフステージ・健康レベルにある人々や療養する人々とその家族を統合的に理解する。 2. 地域で暮らしながら療養する対象のセルフケアの能力やQOLを考え、そのニーズに応じた看護援助、家族への支援方法がわかる。 3. 地域で暮らしながら療養する対象を支えるために必要な社会資源の活用と、関係職種との連携、継続的な看護の実際を学ぶ。 4. 地域でその人らしく生きることの意義について考え、看護観を深める。 5. 看護学生として倫理に基づいた行動ができる。 										
実習方法	<p>1. 実習方法</p> <p>1) 地域保健活動の場における看護の実習 北九州市立介護実習・普及センター（福祉用具プラザ北九州）や地域保健活動（区役所保健福祉課）を通して地域における看護の役割を学ぶ。</p> <p>2) 地域で暮らしながら療養する対象の看護 地域・在宅において、訪問看護ステーションの看護活動を通して、地域で生活しながら療養する対象とその家族について学び、そのニーズに応じた看護援助を行う。</p>										

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野		○	九州医療スポーツ専門学校 令和7年度 看護学科					
授業科目名	成人看護学実習 I					担当者名	鯨臥 絵里子				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				2	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									90		
授業概要	一生病気と付き合い、コントロールしながら自らの力で生活を拡大し、その人らしい生活ができるように、身体的側面や精神的側面、社会的側面から生活者として身体機能の悪化防止と回復促進、また自己管理のための教育的支援、疾病受容の支援、社会的支持の維持支援、それぞれの看護を学ぶ。そして慢性期の対象を通して、疾病受容過程への援助、自己管理への支援、症状マネジメント、日常生活の援助、家族介護者への支援、療養生活を支える社会資源の活用等を学ぶ。										
到達目標	慢性期の患者・家族の看護過程の展開ができる。										
成績評価	出席状況・実習態度・実習記録など実習評価項目に沿って総合的に評価										
その他	鯨臥絵里子（病院手術室において看護師として勤務）										

実習目的	慢性期にある対象の特徴を理解し、対象がセルフマネジメントしながら、その人らしく生活できるよう支援するための基礎的能力を養う。
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 慢性期にある対象の特徴を踏まえ、対象の健康問題を統合的に理解できる。 対象に応じた看護過程の展開ができる。 対象に応じたセルフマネジメントの教育的支援について理解できる。 多職種との連携に必要な知識と具体的方法を理解することができる。 看護学生として倫理に基づいた行動ができる。
実習方法	<p>1. 実習方法</p> <p>病院実習（2単位 90時間） 学生1名に対し、受け持ち患者1名。健康状態や経過、成人期の特徴をふまえて看護過程の展開を行う。 疾病をセルフマネジメントしながら生活していく対象の特徴を理解し、セルフケア能力を促進する看護の実際を学ぶ実習。個々の学生が体験することを、カンファレンスなどを通してグループメンバーで共有する。</p> <p>2. 実習内容</p> <p>具体的な実習内容、方法は実習要項参照</p>

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
			○	令和7年度	看護学科				
授業科目名	成人看護学実習Ⅱ			担当者名	鯨臥 絵里子				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数				2	授業時間数	前期	後期	前期	後期
								前期	後期
								90	
授業概要	成人看護学実習Ⅱでは、急性期にある対象への看護とし、健康状態の急激な変化により、生体はその変化に適応するために、様々な反応を起こしている生命の安全を優先する時期の看護である。そのため、入院から手術・検査・処置と急激な変化が予想される対象を受け持ち、身体侵襲を踏まえ、身体機能の回復に至るまでの援助について学ばせる。また、合併症や二次障害の予防、残存機能の維持・回復のためのリハビリテーション、セルフケア自立への援助、障害受容への支援等についても解説する。								
到達目標	急性期にある患者とその家族に対して、アセスメントに必要な看護の視点を明確にし、生命の危機的状況や日常生活とは異なる状況下での看護について実践することができる。								
成績評価	出席状況・実習態度・実習記録など実習評価項目に沿って総合的に評価								
その他	鯨臥絵里子（病院手術室において看護師として勤務）								

実習目的	急性期にある対象の特徴を理解し、急激な身体侵襲の変化をきたし生命の安全を優先する急性期看護の必要性を理解する。
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 急性期にある対象の特徴を踏まえて、対象の健康問題を統合的に理解できる。 急性期にある対象に応じた看護過程の展開ができる。 身体侵襲の状況にある対象の状態に合わせた援助が理解できる。 日常生活に起こり得る問題を予測し、生活機能の回復と適応への援助及び継続看護について理解できる。 保健医療チームにおける看護師の役割を理解する。 看護学生として倫理に基づいた行動ができる。 手術室の構造・設備、及び術中看護について理解する。
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 実習方法 病院実習（2単位 90時間） 学生1名に対し、受け持ち患者1名。 健康状態や経過、成人期の特徴をふまえて看護過程の展開を行う。 急性期・回復期にある対象の看護の実際を学ぶ実習。 個々の学生が体験することを、カンファレンスなどを通してグループメンバーで共有する。 実習内容 具体的な実習内容、方法は実習要項参照

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野		令和7年度	九州医療スポーツ専門学校 看護学科					
			○								
授業科目名	成人看護学実習Ⅲ				担当者名	松浦 善隆					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				2	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										90	
授業概要	終末期にある成人とその家族の特徴を理解し、全人的苦痛の緩和や意思決定支援、最期のときをその人らしく過ごすための看護の実際を学ぶ。さらに、実習を通して、終末期の患者に寄り添うとはどういうことか深く考え、死生観を養う機会とする。										
到達目標	終末期の患者・家族に対して看護過程の展開ができる。										
成績評価	出席状況・実習態度・実習記録など実習評価項目に沿って総合的に評価										
その他	松浦善隆（病院外科において看護師として勤務）										

実習目的	終末期にある対象、緩和ケアを必要とする対象とその家族の特徴を理解し、全人的苦痛の緩和や最期のときをその人らしく過ごすための看護を実践する基礎的能力を養う。										
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 終末期にある対象、および緩和ケアを必要とする対象とその家族の特徴を理解し、全体像をとらえることができる。 2. 対象の全人的苦痛を緩和するための援助を考えることができる。 3. 対象のQOLの維持・向上を考え、尊重した関りができる。 4. チーム医療の実際を理解できる。 5. 実習を通して死生観を育むことができる。 6. 看護学生として倫理に基づいた行動ができる。 										
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習方法 2単位（90時間） 学生1名に対し、受け持ち患者1名。 健康状態や経過、成人期の特徴をふまえて看護過程の展開を行う。 終末期にある対象の看護の実際を学ぶ実習。 個々の学生が体験することを、カンファレンスなどを通してグループメンバーで共有する。 2. 実習内容 具体的な実習内容、方法は実習要項参照 										

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野			九州医療スポーツ専門学校					
			○			令和7年度 看護学科					
授業科目名	老年看護学実習 I					担当者名		松村 久美			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				2	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									90		
授業概要	実習期間中、施設にて高齢者1名を受け持ち、加齢に伴う変化と施設での生活環境、ADL面について把握し、個別的な自立支援やQOLの向上を目指すため看護を考え実践を通じて学ぶ。高齢者が生活の中でセルフコントロールやセルフケアができるように本人とその家族へのケアをチーム医療における看護の役割について実践を通じて学ぶ。有用な社会資源や多職種連携について学ぶ。										
到達目標	①加齢変化と複数疾患の病態を述べるができる。 ②施設における高齢者への看護の実際を知る。										
成績評価	実習態度・実習記録・出席状況など実習評価項目に沿って総合的に評価										
その他	松村久美（病院精神科において看護師として勤務）										

実習目的	1. 加齢による機能低下をもつ高齢者に応じた日常生活の看護援助を学ぶ。 2. 高齢者の特徴を理解し、保健・医療・福祉システムに関する理解を深める。
実習目標	1. 施設の機能と役割を理解する。 2. 対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 3. 対象に応じたQOLを考慮した日常生活の看護援助を学ぶ。 4. 対象と家族の気持ちを受け止め尊重した態度がとれる。 5. 継続看護の重要性を認識し、保健・医療・福祉の連携について理解する。 6. 看護学生として倫理に基づいた行動ができる。
実習方法	1. 実習方法 介護保険施設に入所中の高齢者1名を受け持ち、加齢に伴う生活機能の変化と複数の既往症を持つ高齢者の病態や障害について把握し、生活支援を通じ、個別的な自立支援やQOLの向上を目指すため看護を実践を通じて学ぶ。 期間中、一日の実習施設の通所サービスでの実習日を設け、受け持ちは設定しないが見学実習を通じて、高齢者が地域包括ケアにおいて高齢者が受けるサービスやその意義を学ぶ。 2. 実習内容 具体的な実習内容・方法は実習要綱参照

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野		令和7年度	九州医療スポーツ専門学校 看護学科					
			○								
授業科目名	老年看護学実習Ⅱ				担当者名	松村 久美					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				2	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										90	
授業概要	実習期間中、高齢者1名を受け持ち、加齢に伴う変化と複数の疾病の病態や障害について把握し、個別的な自立支援を目指すため看護を考え実践を通じて学ぶ。高齢者が生活の中でセルフコントロールやセルフケアができるように本人とその家族へのケアをチーム医療における看護の役割について実践を通じて学ぶ。										
到達目標	老年期の患者・家族への看護過程の展開ができる。										
成績評価	実習態度・実習記録・出席状況など実習評価項目に沿って総合的に評価										
その他	松村久美（病院精神科において看護師として勤務）										

実習目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期の健康障害の特徴を理解し、対象の健康問題を統合的に理解できる。 2. 老年期にある対象の健康障害とそれに伴う諸問題について理解し、対象とその家族に対する援助、看護の展開が生活の視点を考慮して実施することができる。
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的側面の特徴を捉え、対象を理解できる。 2. 高齢者の健康障害の複雑さ、多様性を理解し適切な看護ができる。 3. 対象の健康レベルや諸問題を考慮し、生活の視点から看護の展開ができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の健康レベルや発達段階、生活の視点から看護上の問題を明確化し、看護計画を立案できる。 2) 対象の個性や残存機能を生かした援助を、看護計画に沿って安全・安楽に実施できる 3) 実施した看護の展開を振り返り、評価、修正できる。 4. 老年看護に必要な保健・医療・福祉の連携について理解できる。家族援助の重要性を学ぶ。 5. 看護学生として倫理に基づいた行動ができる。
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習方法 病院実習 高齢者1名を受け持ち、加齢に伴う変化と複数の疾病の病態や障害について看護過程の展開を通じて把握する。 2. 実習内容 具体的な実習内容・方法は実習要綱参照

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校							
			○	令和7年度	看護学科						
授業科目名	小児看護学実習				担当者名	杉山恵子					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				2	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										90	
授業概要	小児看護学実習では、まずは保育所実習で健康な小児との生活や遊びを通して、成長・発達の特徴を学ぶ。その上で、病院実習において小児や家族のニーズを理解した援助や成長・発達に応じた説明、家族への配慮ある対応など、継続看護も含めた健康障害を持つ小児とその家族に対する看護を理解する。										
到達目標	①健康な小児との生活や遊びを通して、成長・発達の特徴を述べることができる。 ②健康障害を持つ小児の特徴・小児とその家族に対する援助の実際を述べるができる。										
成績評価	出席状況・実習態度・実習記録など実習評価項目に沿って総合的に評価										
その他	杉山恵子（病院小児科において看護師として勤務）										

実習目的	小児期にある対象と家族を理解し、小児各期の成長・発達段階、さまざまな健康レベルに応じた看護ができる基礎的能力を養う。
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 小児各期における対象の成長・発達の特徴を理解する。 健康障害のある小児とその家族に対する看護を考えることができる。 健康障害のある小児の経過・症状・治療・処置を理解し、小児の特徴をふまえた基礎的看護技術が分かる。 保健・医療・福祉チームにおける看護師の役割を理解する。 看護学生として倫理に基づいた行動ができる。
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 実習方法 <ul style="list-style-type: none"> 保育所実習（40時間） 保育所の各クラスにて指導者の指導のもと園児と関わり、日常生活や遊びを通して各月齢・年齢の成長・発達を学ぶ。 病院実習（50時間） 小児外来実習 病院で健康を障害された子どもとその家族に対する看護を考えることができる。 個々の学生が体験することを、カンファレンスなどを通してグループメンバーで共有する。 実習内容 具体的な実習内容、方法は実習要項参照

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校							
			○	令和7年度	看護学科						
授業科目名	母性看護学実習			担当者名	檜崎 久美子						
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次			
単位数				2	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										90	
授業概要	種族保存の機能をもつ母性の特徴を臨地実習、学内実習を通して理解し、健全なライフサイクル・マタニティーサイクルを送るための母性及び新生児、またその家族や地域に対し対象に応じた看護が分かり、一部実践できる基礎的能力を養う。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 母性看護学概論、方法論ⅠⅡ、演習の講義で習った事を五感を通して感じることで理解を深めることができる。 母性看護の対象や、対象に必要な看護を五感を通して学び、根拠を教科書に戻り調べることで理解を深めることができ実習記録に記述できる。 										
成績評価	実習態度・レポート・実習記録・口頭試問で総合的に評価する。										
その他	檜崎久美子（病院産科において助産師として勤務）										

実習目的	種族保存の機能をもつ母性の特徴を理解し、健全なライフサイクル・マタニティーサイクルを送るための母性及び新生児、またその家族や地域に対し対象に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 妊婦、産婦、褥婦および新生児の特徴について理解する。 妊婦・産婦・褥婦及び新生児の特徴を理解し必要な母性の看護技術が実践できる。 ハイリスク及び正常経過から逸脱した妊婦・産婦・褥婦の看護。 対象の全体像を把握し、対象に応じた看護過程の展開ができる基礎的能力を習得する。 継続看護の必要性を認識し、保険医療福祉チームにおける看護師の役割について理解する。 看護師として倫理に基づいた行動ができる。
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 実習方法 病棟実習・外来実習・学内実習（計90時間） <ol style="list-style-type: none"> 病棟実習 妊婦・産婦・褥婦・新生児とその家族を対象とした実習 受け持ち（褥婦・新生児）を中心とした実習（看護過程の展開を含む） 外来実習 実習計画に基づいて指導者の指導のもとに行動 学内実習 実習内容 具体的な実習内容、方法は実習要綱参照

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野			九州医療スポーツ専門学校					
			○			令和7年度		看護学科			
授業科目名	精神看護学実習					担当者名		縄田 由美			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				2	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										90	
授業概要	精神看護学実習では、精神疾患・精神症状をもつすべてのライフステージにある患者とその家族を理解し、健康上の課題に対応するための看護実践ができる能力を養う。 また、対象との関わりの中から自己の振り返りを行い、自己洞察を深め、治療的関わりについて学ぶ。										
到達目標	①精神障害者の精神的・身体的・社会的特徴が説明できる ②人権保護を考えた環境のあり方について考え、患者を尊重した態度をとることができる ③受け持ち患者の日常生活行動のセルフケア能力をアセスメントできる ④対象とのかかわりを通して、自己理解・他者理解につなげることができる ⑤精神保健医療福祉システムの中での連携や看護の役割・機能を説明できる										
成績評価	出席状況・実習態度・実習記録など実習評価項目に沿って総合的に評価										
その他	縄田由美（病院精神科において看護師として勤務）										

実習目的	精神に障害をもつ人を理解し、障害の状況にあわせた看護ができる基礎的能力を習得する。 また、保健医療福祉チームにおける看護の役割を理解する。
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害者及び家族の抱える問題の特徴について理解する。 2. 対象の人権保護の重要性を理解し、尊重した態度をとることができる。 3. 対象のセルフケア能力に応じた日常生活の援助ができる。 4. 対象との関わりを通して自己洞察を深め、治療的コミュニケーションを図ることができる。 5. 精神保健医療システムの特徴について理解し、保健医療福祉チームのメンバーとの連携と看護師の役割について理解できる。 6. 主体的に学ぶ取り組みができ、看護学生として倫理に基づいた行動ができる。
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習方法 病棟実習とデイケア実習もしくは交替実習 病棟実習 受け持ち患者中心の実習（看護過程の展開） デイケア実習もしくは交替実習 実習計画に基づき指導者の指導のもとに行動する 2. 実習内容 具体的な実習内容・方法は実習要綱参照

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
			○	令和7年度	看護学科				
授業科目名	看護の統合実習				担当者名	橋本 真美			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数				2	授業時間数	前期	後期	前期	後期
								前期	後期
								90	
授業概要	既習の知識・技術・態度を統合し、患者を統合的に捉え、一人一人の患者のニーズに合わせた看護を 実践できる基礎的能力を習得する。								
到達目標	1. 複数患者を担当し、援助の優先順位の根拠を述べ、実践できる。 2. 病院の機能や他部署の役割を記述できる。								
成績評価	出席状況・実習態度・実習記録などによって総合的に評価する。								
その他	橋本真美（実務経験なし）								

実習目的	看護管理の実際を知り、看護チームの一員としての体験を通して、チーム医療の実際を理解する。また、夜勤者からの申し送りを受け、日勤帯の業務を実施していくことで、継続看護の必要性を学び、患者を統合的に捉え、一人一人の患者のニーズに合わせた看護を実践できる基礎的能力を習得する。
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理の実際を知ることにより、保健医療チームにおける看護の役割と機能を理解する。 2. チーム医療・他職種との連携の中で、メンバーシップやリーダーシップ及びマネジメント能力を理解する。 3. 複数の患者から、優先度の根拠や安全安楽に実践する基礎的能力を修得する。 4. 看護倫理に則って判断し、看護専門職としての責任を自覚し行動できる。 5. 専門職業人になるうえで、将来の看護師としての自己の課題を明確にできる。
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習方法 病院実習 既習学習を統合するとともに、チーム医療・他職種との連携の中で、メンバーシップやリーダーシップ及びマネジメント能力を実習を通して学ぶ。複数患者の看護を優先順位と時間管理を考慮して、基礎的能力を身につけ、習得する。専門職業人になるうえで、将来の看護師としての自己の課題を明確にできるように、カンファレンスなどを通してグループメンバーで共有し、学びを図る。 2. 実習内容 具体的な実習内容・方法は実習要綱参照